

第56回 全道造形教育研究大会札幌大会



札幌杯
確かな表現実感有
造形教育

1日目：札幌市立澄川西小学校／2日目：札幌芸術の森

Sapporo
56th.

2006.07.26-27

北海道造形教育連盟・札幌市造形教育連盟

第56回 全道造形教育研究大会 札幌大会

《北海道造形教育連盟研究主題》

出会いと対話から自己創造感が生まれる造形教育

《第56回全道造形教育研究大会 札幌大会研究主題》

楽しさあふれ、

確かな表現を実感する

造形教育



■会 期：平成18年7月26日(休)・27日(休)

■会 場：札幌市

札幌市立澄川西小学校、札幌芸術の森

■主 催：北海道造形教育連盟、札幌市造形教育連盟

■後 援：北海道教育委員会、札幌市教育委員会、

財団法人パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会

財団法人札幌市芸術文化財団

札幌市立幼稚園長会、社団法人札幌私立幼稚園連合会

札幌市立小学校長会、札幌市立中学校長会

北海道高等学校長協会、北海道特殊学校長会

目 次

○ あ い さ つ	大会長（北海道造形教育連盟委員長）	今 裕 子	3
	実行委員長（北海道造形教育連盟事務局長）	菅 原 清 貴	4
○ シンボルマークについて、開会集会、大会日程			5
○ 階段式授業のタイムスケジュール			6
○ 授業・分科会一覧			8
○ PMFイベント紹介			10
○ トントンギコギコ図工の時間・夏休み特別講習〈クラフト工房〉紹介			12
○ 大会研究主題			13
○ 研究主題と3つの扉			15
○ 研究全体図			17
○ 「造形のWA」による題材の考え方			18
○ 暮らしと造形			19
○ こころと造形			31
○ つながる造形			47
○ 札幌市全体図			59
○ 各会場付近図			60
○ 会場紹介			61
○ 芸術の森案内図			62
○ 澄川西小学校案内図			63
○ ネットワーク部会			64
○ 平成18年度 北海道造形教育連盟名簿			66
○ 平成18年度 札幌市造形教育連盟名簿			68
○ 北海道地区サークル名簿			70
○ 全道造形教育研究大会組織図			72
○ 全道造形教育研究大会のあゆみ			74
○ 連盟規約			76



造形でつながる 人・夢・未来…の輪

北海道造形教育連盟委員長

今 裕 子

造形活動は子どもの夢、そして大人の希望！

2001年、21世紀最初の記念すべき年に全国造形教育研究大会札幌大会を開催してから早くも5年の時を経ました。この間、教育を取り巻く情勢が大きく変化していく中であり、人間の成長にとって「造形教育」が大切であり、みずみずしい感性を回復させ生きる力となることを造形連盟は毎年開催される各地区大会で実践し、確認しあい継承し続けてきました。

研究主題「楽しさあふれ、確かな表現を実感する造形活動」を提示するにあたり、私たちは子どもに寄り添い、現在の学校教育の中で実現可能なことを模索しながら題材の開発に試行錯誤し、日々の授業を何よりもよりどころに進めてきました。

この研究主題を成立させる背景には、子どもを取り巻く社会環境をはじめ教育の動向を見極め、何より目の前の子どもたちの今を生き抜く力と未来のために、子どものもつエネルギーが本来の力を発揮し、生きる原動力となることを願い校種を超えて論議してまいりました。

揺れ動く社会、新たな学習指導要領改定の動きを目前にし、これまでにない厳しい状況にあることを踏まえ、その動きを見据え、北海道造形教育連盟が56年の歩みの中で育て、また育てようと繋いできた「造形へのこころ」を土台とし、人間育成の基本が位置付く教科であることをこの大会で主張いたします。

つながる「ゆめ」・ときめく「こころ」・ゆたかな「くらし」

造形活動は子どもにとって夢膨らむ活動であり、それにかかかわる私たち大人は子どもの夢づくりを支援し、自ら希望をもって教育活動を実践する人になりたいものです。

大会1日目は、幼児から小学生、中学生、そして高校生まで昨年のプレ大会同様、生き生きとした表現活動が展開されることが期待されます。幼い子どもが泥遊びや砂遊びをするように、生活が遊びを中心に繰り広げられた頃の「ゆめ」をつなぎ、「ゆたかさ」を幼児・児童・生徒の活動の姿に感じ取っていただきたいと思えます。種々多様な生き方・考え方の時代の中にあって、造形活動による「あそぶ」「つくる」「みる」「たのしむ」「かんじる」が今や贅沢な響きを伴いつつあるように思われます。この贅沢を子ども達とともに思い切り体験したいものです。

大会2日目は、前回の全国大会会場でもあった「札幌芸術の森」で、夢のコラボレーションを試みます。PMF組織委員会の後援をいただき、世界から集まった団員の皆さんのオーケストラの演奏と小・中学生の造形表現の融合がどのように繰り広げられるかとときめいてきます。この日は「札幌芸術の森開園20周年記念日」に偶然にも重なり、様々なイベントやクラフト体験もあります。また『トントンゴゴゴ工の時間』の上映会と監督の野中真理子さんのトークも行われます。『愛おしいものとの出会い』と野中さんが語る子ども達に映画を通して出会うことによって、私たちもまた、すばらしい感動を授業に持ち帰ることができものと信じています。

2日間の造形大会札幌大会「ここから始まる造形の未来」に参加して下さった皆様にとって「ここ」が子どもを中心とした造形活動の可能性を実際に観て感じていただける場になることを願っております。



サッポロで子どもが花開く姿に 会いましょう！

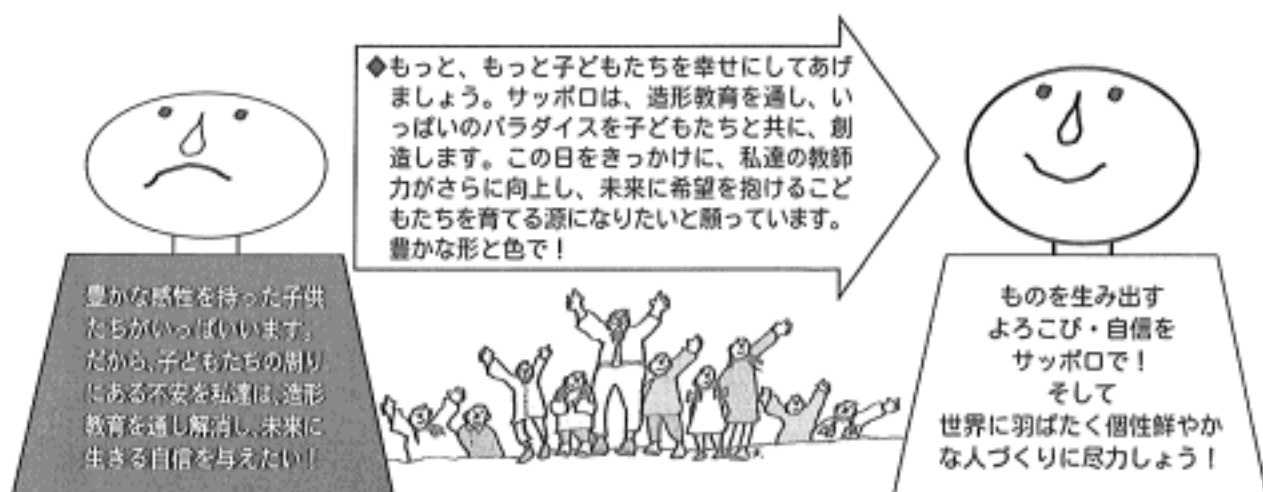
札幌大会実行委員長

菅原 清 貴

前回の学習指導要領の改訂で、小学校も中学校も図画工作科・美術科の年間授業時間が削減されました。造形教育は、豊かな国をつくるのにあまり役立たないのでしょうか。わたしは、以下の理由から、まったく逆ではないかと考えています。それは第1に、造形教育から生み出される全ての作品及び活動は、一人一人の子どもが想いをもち課題を追求し、自分の感性を信じながら歩み進めゴールをむかえる学習であるという特性を持っています。つまり、よく教材研究された魅力ある題材で、誠実に学習を構築すれば、全ての子が学んだ満足と充実感がもたらされます。この活動の先には“こたえが子どもの数だけある”のです。学習意欲の低下が問題視されていますが、造形教育を充実させることは、自ら考え（自分の想いをもち）自ら学ぶ（自分の行為に自信を持つ）ことにつながり、学習の楽しさを実感できる教育へと広がります。他の教科にも、この学ぶ姿勢は大きな力になります。第2に、造形教育を通し伝統や風土に育まれたオリジナリティー溢れる形や色の世界を、五感を通して幼児から磨いていくことで、我が国ならではの“ものづくり”につながるものと考えます。

私たちは、札幌での全道大会を開催するにあたって、全校種のプレ大会を開催しました。これは、子どもたち全ての年代に渡って魅力的な授業構築が必要と考え、大会をそのための大切な場としたいと思ったからです。そのために、事前に全校種で実際の授業づくりを通し、“子供たちに寄り添う魅力的な授業”の確信をつかみたかったわけです。ご協力いただいた札幌市立白楊幼稚園、澄川西小学校、八軒中学校、開成高等学校には、深く感謝いたします。

この大会の全ては、これらの事前研究が土台となっています。是非、札幌の2日間に浸っていただき、忌憚り無いご感想を私たちにお聞かせ下さい。そして、益々の造形教育の振興のため、共に前進していきましょう。



- サッポロで…子どもが輝く、感性をみがく場を【これまでの蓄積を通し】
- サッポロで…生活の場・対象とのふれあいを通し、子どもが輝く！
- サッポロで…子どもが輝く、五感を大切に【みる・きく・かく・ふれる・あじわう】

子どもに寄り添う造形教育をサッポロで！

○大会シンボルマークへの思い

このマークは、本大会の主題である「楽しさあふれ、確かな表現を実感する造形教育」からイメージした「子ども」と「造形 (Art)」を意味しています。

絵筆のとんがり帽子をかぶった子どもたちは、思い思いに楽しく「自分」を表現し、温かなかかわり合いの中で、豊かな心を育てていきます。

踊るように広げた脚は「Art」の「A」を表し、2人を結ぶ輪は、表現活動の広がりや心と心のつながり合いを表しています。



シンボルマークデザイン 北海道教育大学附属札幌小学校 堀口基一

○開 会 集 会

第1日目 10:30~11:10

1. 開会の言葉	全道造形教育研究大会副大会長	寺 嶋 文 憲
2. 主催者あいさつ	全道造形教育研究大会大会長	今 裕 子
3. 来賓紹介	全道造形教育研究大会副大会長	塚 野 昭 臣
4. 研究主題説明	全道造形教育研究大会研究部長	川 島 正 夫
指導・助言	文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官	奥 村 高 明 氏
5. 閉会の言葉	全道造形教育研究大会実行委員長	菅 原 清 貴

○大 会 日 程

第1日目 7/26(水)		公開授業・授業検討会・ネットワーク部会・課題別分科会 会場：札幌市立澄川西小学校の日						
9:00		10:30	11:10	12:20	13:30	16:00	18:30	20:30
階段式授業公開		開 会 集 会	授 業 検 討 会	昼 食	課 題 別 分 科 会 ネ ッ ト ワ ー ク 部 会	移 動 ・ 片 づ け	歓 迎 レ セ プ シ ョ ン 閉 会 集 会	
第2日目 7/27(木)		PMFとのコラボレーション・映画上映(監督トーク)・クラフト工房 会場：札幌芸術の森の日						
9:40 9:50		10:30	12:00	13:20	15:00			
入 場 開 始	開 始	PMFと造形表現の コラボレーション	映 画 「トントンギコギコ園工の時間」 上映	野中真理子監督 トークショー	映 画 「トントンギコギコ園工の時間」 上映			
クラフト工房・夏休みの特別講習 ~ガラス・陶芸・染色~ 絵の具で遊ぼう! ボディペインティングで大変身								

授業・分科会 タイムスケジュール

9:00

9:15

9:30

10:15

10:30

【くらしと造形】4F視聴覚室

「とんだ?とんだ!」

小学2年 指導者 八子晋嗣

【くらしと造形】4F図工室

「カラフルな焼き皿」

中学2年 指導者 八子正人

【くらしと造形】3F音楽室

「つなげて、すてき ながめて、きれい」

小学4年 指導者 岩井久根

【こころと造形】3F多目的室

「Bくみ わくわくランド」

年長 指導者 佐々木瑠美 内田芳恵

【こころと造形】2F家庭科室

「映像メディア表現」

高校複数校 指導者 川上 勉

【こころと造形】3F会議室

「彫刻美術館の音楽会」

小学3年 指導者 森實祐里

【こころと造形】1F4年1組

「むくむく わくわく」～大きくなったぼく・わたし～

小学2年 指導者 池田武彦

【こころと造形】2F6年2組

「思いをかたちに」

中学2年 指導者 市川雅基

【つながる造形】2F6年1組

「絵文字で伝えよう」

中学1年 指導者 館内 徹

【つながる造形】3F体育館

「すみにしつなげるネット」

小学全学年 指導者 澄川西小全職員

【つながる造形】校庭

「古代からのおくりもの」

小学4年 指導者 磯部雅之

開
会
集
会
(3F体育館)

視覚芸術ネットワーク会議

幼稚園

【こころと造形】

「Bくみ わくわくランド」

3 F 多目的室

小学校

【くらしと造形】

「とんだ？とんだ！」

「つなげて、たてき ならべて、おおい」

4 F 視聴覚室

【こころと造形】

「彫刻美術館の音楽会」

「むくむく わくわく」

1 F 4年1組

【つながる造形】

「古代からのおくりもの」

「すみにしつながるネット」

3 F 体育館

中学校

【くらしと造形】

「カラフルな焼き物」

4 F 図工室

【こころと造形】

「思いをかたちに」

2 F 6年2組

【つながる造形】

「絵文字で伝えよう」

2 F 6年1組

高等学校

【くらしと造形】

「映像メディア表現」

2 F 家庭科室

ネットワーク会議

2 F 理科室

3つの扉 課題別分科会

【くらしと造形】

提言「生活に生かせる粘土」

小学5年 松本和彦

提言「くらしに生きる造形」

中学2年 松葉英明

助言者 寺嶋文憲 野呂憲一

司会者 大高雅子

記録者 新見亜矢子

4 F 視聴覚室

【こころと造形】

提言「遊びの必要感やイメージが心を動かす」

年中 川口いずみ

提言「素材体験から子どもの感じる心を」

小学4・5年 宮田珠世

提言「水墨画で心をはぐくむ」～基礎演習から表現へ～

中学3年 高橋久美子

助言者 益村 豊 中村郁子

司会者 石川早苗

記録者 椿野衣江

3 F 多目的室

【つながる造形】

提言「どろんこパーク」

小学2年 三浦麻紀

提言「半立体の学校祭テーマパネル」

中学全 森長弘美

助言者 菅原清貴 墓田充泰

司会者 向井正樹

記録者 小野博史

3 F 体育館

第1日目

7/26(水)

●階段式授業公開

●授業検討会

扉	題 材 名	提 言 者	校種・学年
くらしと造形	「とんだ?とんだ!」	八子 晋 嗣 (山鼻南小)	小学2年
	「つなげて, すてき ながめて, きれい」	岩井 久 根 (二条小)	小学4年
	「カラフルな本焼き皿」	八子 正 人 (発 寒 中)	中学2年

こころと造形	「Bくみ わくわくランド」	佐々木 瑠 美 内 田 芳 恵	年 長
	「むくむく わくわく」 ～大きくなった ぼく・わたし～	池 田 武 彦 (月 寒 小)	小学2年
	「彫刻美術館の音楽会」	森 實 祐 里 (三角山小)	小学3年
	「思いをかたちに」	市 川 雅 基 (屯田北小)	中学2年
	「映像メディア表現」	川上 勉 (白 陵 高)	複数校生徒

つながる造形	「すみにしつながるネット」	澄川西小学校全職員 (代表者 福島由紀子)	全校児童
	「古代からのおくりもの」	磯 部 雅 之 (常 盤 小)	小学4年
	「絵文字で伝えよう」	館 内 徹 (藤 野 中)	中学1年

●課題別分科会 ■会場：札幌市立澄川西小学校

扉	提言テーマ	提言者	校種・学年
くらしと造形	「生活に生かせる粘土」	松本和彦 (発寒小)	小学5年
	「くらしに生きる造形」	松葉英明 (栄中)	中学2年

こころと造形	「遊びの必要感やイメージが心を動かす」	川口いづみ (白楊幼)	年中
	「素材体験から子どもの感じる心を」	宮田珠世 (円山小)	小学4・5年
	「水墨画で心をはくくむ」 ～基礎演習から表現へ～	高橋久美子 (福井野中)	中学3年

つながる造形	「どろんこパーク」	三浦麻紀 (三角山小)	小学2年
	「半立体の学校祭テーマパネル」	森長弘美 (屯田北中)	中学全学年

扉	助言者	司会者	記録者
くらしと造形	寺嶋文恵(東米里中) 野呂恵一(函館市立西小)	大高雅子 (平岡緑中)	新見亜矢子 (平岸高台小)
こころと造形	益村豊(菊水小) 中村郁子(釧路市立美原小)	石川早苗 (宮の丘中)	椿野衣江 (真栄中)
つながる造形	菅原清貴(前田北小) 藤田充泰(石狩市立花川北中)	向井正樹 (あいの里東中)	小野博史 (東山小)

コラボレーション 造形活動&PMF

今年度の全道造形研究大会札幌大会では造形教育を「くらしと造形」「こころと造形」「つながる造形」の3視点から、授業の方法、内容、子どもの変容（授業の効果）について実践研究をすすめてきました。造形活動による精神の解放感や自己の肯定感は心の発達に大きく関わることは言うまでもありませんが、図工や美術の学習は教室や学校の中だけに閉じられた活動ではなく、創造性を「根」とする「ものづくりの活動」は他の分野や実際の生活、社会、産業とつながって、大きな意味や価値を持っています。音楽のイメージを平面や立体に表現する活動は教室でも行われる実践ですが、今大会では小中学生が間近で生の演奏を聴き、即興で、そのイメージを表現する活動を行います。

1. 扉との関わり

- ◇こころ…低俗な情報が氾濫する現代、人間的、あるいは文化的に豊かな環境を整えることが子どもの心を育むための、最も重要な条件であることは間違いありません。少なくとも学校教育では子どもの心に直接伝わる、質の高い刺激準備をしたいものです。そういう意味でPMFの演奏は子どもたちの心を揺さぶり、感性を覚醒させてくれるにちがいありません。コラボレーションが終了したときの子どもたちの表情に期待しています。
- ◇くらし…「音などの視覚以外の感覚」や「思い」といった目に見えないイメージを形として表すことは、ものづくりにおいては特に大切な力のひとつです。現実には、身のまわりにある生活のための道具の形・色・機能は、全て誰かのイメージが形を成したものです。イメージを形にする力は産業やくらしの中で生きてはたらいっています。
- ◇つながる…今大会の取り組みの中で、音楽と造形、造形連盟とPMFと芸術の森、小学校と中学校といった新たなつながりが生まれました。また、準備活動において、子どもたちどうしがアイデアを出し合って、つくり上げていく場面が多く、造形活動によって、コミュニケーションの力が磨かれることを再確認しました。

2. 学校の授業で

〈小学校〉

曲を聴いて布（薄い布）を染める

- ・身近な曲、モーツァルト、ベートルージュカ等の比較、表現

〈中学校〉

①三角形をユニット（単位）にして立体構成をする

- ・曲イメージの表現
- ・線材（スチレンボード）による立体模型

②音・曲を色彩と形で和紙に表現する

- ・動物の声や効果音の表現
- ・身近な曲、モーツァルト、ベートルージュカ等の比較、表現



3. 当日の活動

○出席確認、健康確認、輸送、教材教具運搬（※前日までに一部運搬）

[小学生]	[中学生]
②整列・挨拶1（英語）	①整列・挨拶2（英語）
〈演奏開始〉 ③しばし鑑賞	
④ホール外で準備 ①服装 ②活動の最終確認 ③造形物確認	④中心立体の組み立て ・フレーム、回転部品、ライト、配線 ○立体横で演奏を和紙に表現 ・和紙（大）を斜めに立てて、一気に描く ・和紙（小）を床に置いて描く ○小学生補助
⑤入場、曲によって身体表現 ⑥装飾表現	⑦和紙（小）をフレームに貼り込む
〈演奏終了〉 ⑧活動終了、整列	⑧活動終了、整列 ・点灯 ・回転
⑨拍手	⑨拍手
	⑩挨拶（英語） ⑪演奏者に感想をうかがう ⑫参観者に感想をうかがう
⑬ 整列、挨拶「ありがとうございました」	
活動終了	

4. PMF (Pacific Music Festival) について

パシフィック・ミュージック・フェスティバルは、20世紀を代表する指揮者、作曲家、そして教育者として知られたレナード・バーンスタインの提唱により1990年に創設された国際教育音楽祭です。「世界中の人と感動を分かち合い、それを受け継いでいく人たちを育てたい」というバーンスタインの夢が形になったPMFは、若手音楽家の育成を通して音楽の普及、発展をめざしています。また、パシフィック (Pacific) は平和を意味し、音楽教育を通じて世界の平和に貢献したいという願いが込められています。PMFアカデミーでは世界を代表する音楽家を教授陣に迎え、世界各地からオーディションで選ばれた若手音楽家を育成する教育プログラムで、才能豊かな若者達が国籍や言葉の壁を越え、さわやかな感動を呼ぶハーモニーを奏でます。

札幌をはじめとして北海道内及び東京、大阪、名古屋で開催されます。

5. 当日の演奏

指揮者：PMFオーケストラ・レジデント・コンダクター

サシャ・ゲッツェル

曲名：バレエ音楽「ペトルーシュカ」

第4場「謝肉祭の日」夕方

作曲者：イゴール・ストラビンスキー



《映画上映》 1回目 10:30~ 2回目 13:20~

主人公は7才から12才までの子どもたち。彼らの大好きな図工の時間には、うまくなくてもいいから、自分らしさ、考える喜び、つくる楽しさ、そして、子どもたちの希望に満ちた笑顔にあふれています。

図工専科の先生との愉快で切ない小学生のドキュメンタリーです。(99分)

文化庁文化記録映画優秀賞

2004年度キネマ旬報ベストテン 文化映画部門第3位

《野中監督のトークショー》 12:15~13:10

「こどもの時間」「トントンギコギコ図工の時間」の映画監督、野中真理子さんと全国造形教育連盟委員長 富安 敬二さん（立教大学文学部教授）をお迎えして、図工の時間を見つめてきた熱い思いや造形教育へのメッセージを語ってもらいます。司会は、副大会長 毛馬内 國夫が務めます。



夏休み特別講習 《クラフト工房体験》 第2日目 10:00~12:00 13:00~15:00

新しい芸術・文化の創造と発信を目指すため札幌の地にオープンした「芸術の森」は、今年開園20周年を迎えます。札幌市の南の丘陵地にあるこの「芸術の森」は、その名にふさわしい豊かな自然環境の中にあり、広さ40haにも及ぶ敷地には、鑑賞、発表、制作、研修、情報交流の機能を備えた各種芸術施設が点在しています。

この恵まれた環境を生かして企画されているのが、「クラフト工房・夏休み特別講習」です。

夏休み・冬休みの年2回、「染色」「手織」「七宝」「陶芸」「ガラス」等、子供たちが普段はなかなか体験できない多彩な表現手法に挑戦するものです。それぞれの担当講師が丁寧に指導してくれるので、初めての子供でも安心して“世界でたった一つのとおきの作品づくり”を楽しむことができると、評判が広がりつつある企画です。

「ものをつくる」ことは大人にとっても子供にとっても楽しいもの。きれいに、使いやすく、そして自分らしく…表現することに没頭した時間と出来上がった作品は、心豊かに暮らしを彩ります。

当日は、子供たちがドキドキ・ワクワクしながら“クラフト工房体験”する様子を直に見ていただくために、通常は別日程で設定されている各種工房を同時に開設します。



札幌芸術の森



10:00~12:00

13:00~15:00

ガラス工房

サントブラストでガラス作り

ガラス工房

サントブラストでガラス作り

染色工房

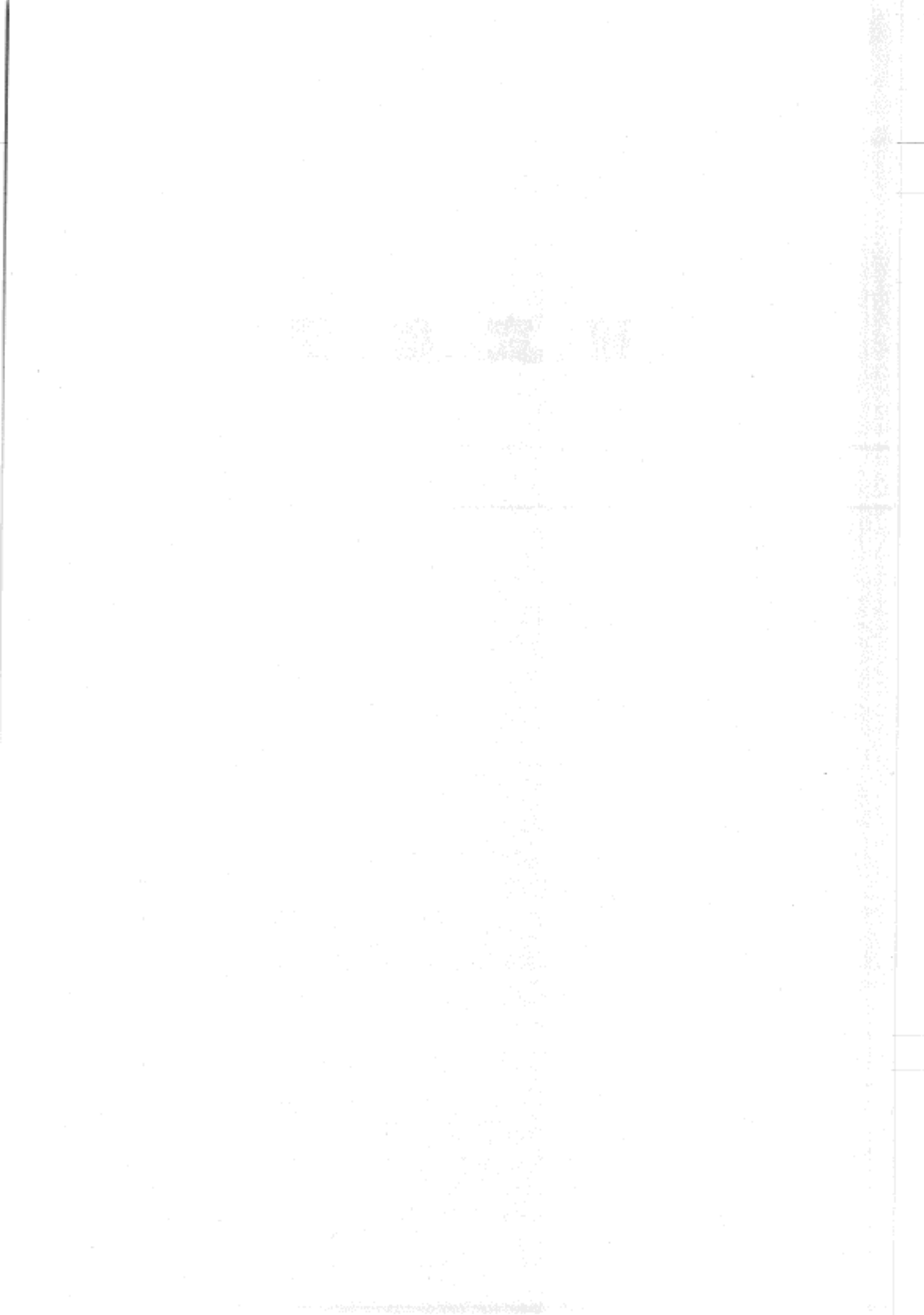
草木染めてハンダナ作り

陶芸工房

茶まづくりのお茶碗作り

芸術の森美術館では「紫の雨-福井爽人の世界」展も開催しています。この機会をお見逃しなく。

研 究 概 要



【北海道造形教育連盟研究主題】

「出会いと対話から自己創造感が生まれる造形教育」

【第56回全道造形教育研究大会／札幌大会研究主題】

「楽しさあふれ、確かな表現を実感する造形教育」



はじめに

戦後の日本教育界の動向は<知識重視の伝統的な教育観>と<意欲を土台とした態度重視の子ども中心主義>の間を行き来する振り子を思わせるものがあります。経験主義の問題解決学習を志向した「教育の生活化」の時代に始まり、系統学習への転換と基礎学力の充実を志向した「教育の系統化」、科学的な概念と能力の育成を志向した「教育の科学化」、1970年代後半の学校生活におけるゆとりと充実をうたった「教育の人間化」、新しい学力観に基づく個性の重視を志向した「教育の個性化」、特色ある学校づくり、総合的な学習の創設に代表される「教育の総合化」というように、学校を取り巻く社会の要請を受けて、カリキュラム改革の振り子は左右にふれ続けています。21世紀に入った現在、日本の教育はどちらに振れていくべきでしょうか？

さらに、選択美術に代表される教育の二極化の問題、「図工・美術の学習でどんな力がつくのか」といった説明責任の問題等、造形教育を取り巻く現状には厳しいものがあります。

出会いと対話から自己創造感が生まれる

現代の日本は、個人主義が先鋭化することで人間関係が希薄化するばかりでなく、今より高い水準の生活は現実的には求めることが難しく、物質的に充足しているがため、人生の目標や夢をもちにくくなったように見えます。現代は、自分自身の価値を意識して生きることは、難しい時代になってしまったといえます。

(参考：「他人を見下す若者たち」速水敏彦著)

このような現代社会において、造形教育の果たすべき役割はさらに増えています。なぜなら、造形教育は「手を動かす」という最も自然な方法で、自分自身を信じること・自然の自分を表すことを体験させる教科であり、造形を通して、子ども一人一人の価値を教師や友達から認められ、自分自身と向き合うことで「より人間的な在り方や表現」を求める教科であると言えるからです。友達の作品を見て、そのよさに気づいたり、影響を受けたりしていく、そこにはものを媒介とした他者理解というシステムが機能しています。技術を習得していく中で、表現の幅が広がると同時に、「きれい」「美しい」ということを感じる能力も高まる、つまり感情と表現が相互に発展していく教科なのです。

造形教育は、造形的な感覚や判断力、表現力といった<芸術的教育>を通して人間形成・情操教育といった<芸術による教育>を実現する教科なのです。

人間形成の必要性 と造形教育

造形教育の価値や 意義を積極的に 発信していく

「学力」低下が叫ばれる今日、教科の存続さえも危ぶまれる向きもあります。先に述べましたように教育の有り様が揺れている現代だからこそ、私たちは、造形教育の人間形成における役割を発信していく必要があると考えます。

大会テーマについて

「美術」は一部の才能のある人間にとってのみ必要なものであり、一般的な人々の生活とは無縁である、という閉じられた考え方があります。この考え方は、興味や能力のあるものが選択し学習すればよい、という考え方につながりかねません。ですから

〈造形教育を「ひらく」〉

- ・美術・図工が楽しく、自分とのかかわりの深い活動であるということを感じ取れるようにする
- ・個性と共同性を補完し合いながら、豊かな人間性と深い教養を育む価値ある教育活動であることを社会や保護者に子どもの姿で説明していく

必要があると考えます。そのためにも、

〈「すくすく」育て〉

- ・伸びやかな自己表現を保障しながら、適切な造形刺激を与えていくことで基礎・基本を育てる
- ・自分なりの価値を求めて楽しく表現していく指導を

〈「つくるの大好き！」な子ども〉

- ・自ら進んで楽しく取り組むことから真の自己表現の喜びを経験させていく
- ・伸びやかな自己実現を保障していく

ことが必要になると考えます。

楽しさあふれ、確かな表現を実感する

楽しい活動
個のよさと課題に
応じた指導

子どもは自由な体験の中から自分にとって必要な技能や知識を身に付けていきます。スキー学習などで見られるように、子どもは「ああしなさい、こうしないとだめですよ。」と言われなくても、楽しいことであれば、何度でも経験するうちにどんどん上達するものです。昨今「基礎・基本の定着」の指導が叫ばれるようになってから、「みんながこうしなくてはいけない。」という指導が再度重要視されてきているように思われます。子どもの表現力が乏しいから、まだ拙いと思て、次の段階へと早急に引き上げていく指導は、造形教育になじまないものです。私たち造形教師は、今一度〈授業時間に一人一人に徹底的に関わっていく「歩育」〉により、一人一人のよさや課題に寄り添う指導を大切にしなければなりません。

学びの実感のある
授業を！

造形教育を「ひらき」、価値や意義を発信していくために私たちができることは「よい授業」「よい活動」を子どもや保護者、社会に提案していくことです。そのためには、学習で育みたい力を明確にしつつ、子ども自身、あるいは子ども同士で「こんなことが表せた！」「自分の力を出し切れた！」「取り組んだ甲斐があった！」と認め合える〈学びの実感のある授業〉をつくり出していく必要があると考えています。その過程において、単に「上手にできた、表せた」というのではなく、「自分にしか描けない作品がくれた！」と子どもが感じ、〈自分にとっての新しい意味や価値をつくりだしていく〉という、「確かな表現」を実現させたいと考えます。学びの実感がある授業を通して、造形的な感覚や判断力、表現力を育てていきたいと考えているのです。大人側からの画一的な力の育成ではなく、一人一人のもてる力や課題、求めに応じた造形教育観こそ、私たちが目指すところです。先に述べました、個のよさや課題に応じた教育によって、子どもに自己表現の喜びを取り戻させたいと考えているのです。

研究主題と《3つの扉》

—実際の授業づくりに向けて—

アンケートの結果から

2003年、北海道造形教育連盟は基礎研究のひとつとして「北海道の子どもの現状を捉えるためのアンケート」を実施しました。バランスのとれた年間指導計画を行おうとしている教師が多い、のびやかさや発想のパラエティー化が見られる等、教師や子どものよさが浮き彫りになった反面、私たちの予想以上に造形活動嫌いの子どもの数が増えている、学年が進むにつれて「思うようにできない」と感じている子どもが増えている、「めんどくさい」「やる気がしない」と意欲や態度にかかわる否定的回答が目立つ等の子どもの実態も見えてきました。また、教師の問題として、造形活動における人間形成という側面の軽視、造形遊びに対する関心の低さ等も見えてきました。まさに、学ぶ喜びや、学ぶ意味・価値が十分に伝えられていない子どもの実態が見えてきたのです。このアンケート結果こそ、本大会の研究主題であります「楽しさあふれ、確かな表現を実感する造形教育」設定の背景となっています。

確かな表現を実感するために

「確かな表現の実感」を生むために、私たちは、授業研究を通して教材化の視点を吟味してきました。その過程で〈今を生きる子どもと造形のつながりを深める〉、〈美的感動体験をよりどころとし、心を育む〉、〈造形の領域やあり方を見直し、問い直す〉という3つが大切だと考えるようになりました。これらこそ造形教育を考える上で、また教材化を行う上で大切な視点となる、という考えに至ったのです。

- ◆子どもの生活とのつながりを強めたり、生活に戻ったりする教材化から表現意欲を喚起する。
- ◆「きれい!」「すごい!」といった子どもの感性に働きかける教材化、自己実現に向かう教材化から子どもの心を育む。
- ◆従来とは異なる新しい造形活動を提供することから、子どもの全人的な成長を育む。

このようなことを大切にしたい授業づくり行っていきたいと考えます。

私たちは、従来の校種や領域にとらわれることなく、この3つの視点から授業づくりを行い、「確かな表現を実感する」造形学習に迫りたいと考えています。



子どもたちや
保護者、社会に
向かって
発信していく

私たちは本大会でこの3つの視点から造形教育の価値や意義を【造形活動を実際に行う子どもたち】、【保護者】、【地域】に向かって発信していきたいと考えています。発信に当たって、1996年の全道造形教育研究大会／札幌大会より取り組んでいる「扉」という考え方をしたいと思っています。「扉」は、幼稚園・小学校・中学校・高校という学校種にこだわることなく〈子どものつくる喜び〉を問い直す視点であり、先に述べた教材化の視点でもあります。さらに今回の大会では、造形教育の価値や新しい可能性を札幌より発信する窓口とも考えています。そこで、「くらしと造形」、「こころと造形」、「つながる造形」という3つの「扉」を設定し、研究大会当日の分科会もこの「3つの扉」にそって設定します。私たちは「扉」を通して、〈造形による生活の豊かさ、潤い〉、〈造形こそがもつ根源的な価値〉、〈造形教育の新しいあり方〉を子どもたちや保護者、教育関係者、地域に対し力強く発信していきたいと考えています。

さらには、この3つの扉の考え方を基にして実践研究を重ね、今の子どもの実態に即した連盟独自の領域論も構築していきたいと考えています。

楽しさあふれ、確かな表現を実感する造形教育

教材化の視点

「3つの扉」

くらしと造形 (日常生活に生きる造形)	こころと造形 (造形による心の教育)	つながる造形 (造形を介した新しい可能性)
<ul style="list-style-type: none"> ・造形の生活化 ・生活を豊かにする造形 ・機能美の追究、環境と造形 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己を表現する造形 ・美的感動体験 ・文化の理解 (鑑賞) 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションとして ・他教科との関連 ・地域、異校種との連携 ・癒しとしての造形

造形による生活の豊かさ、潤いを 造形教育のもつ根源的な価値を 造形教育の新しいあり方を

研究討議の切り口

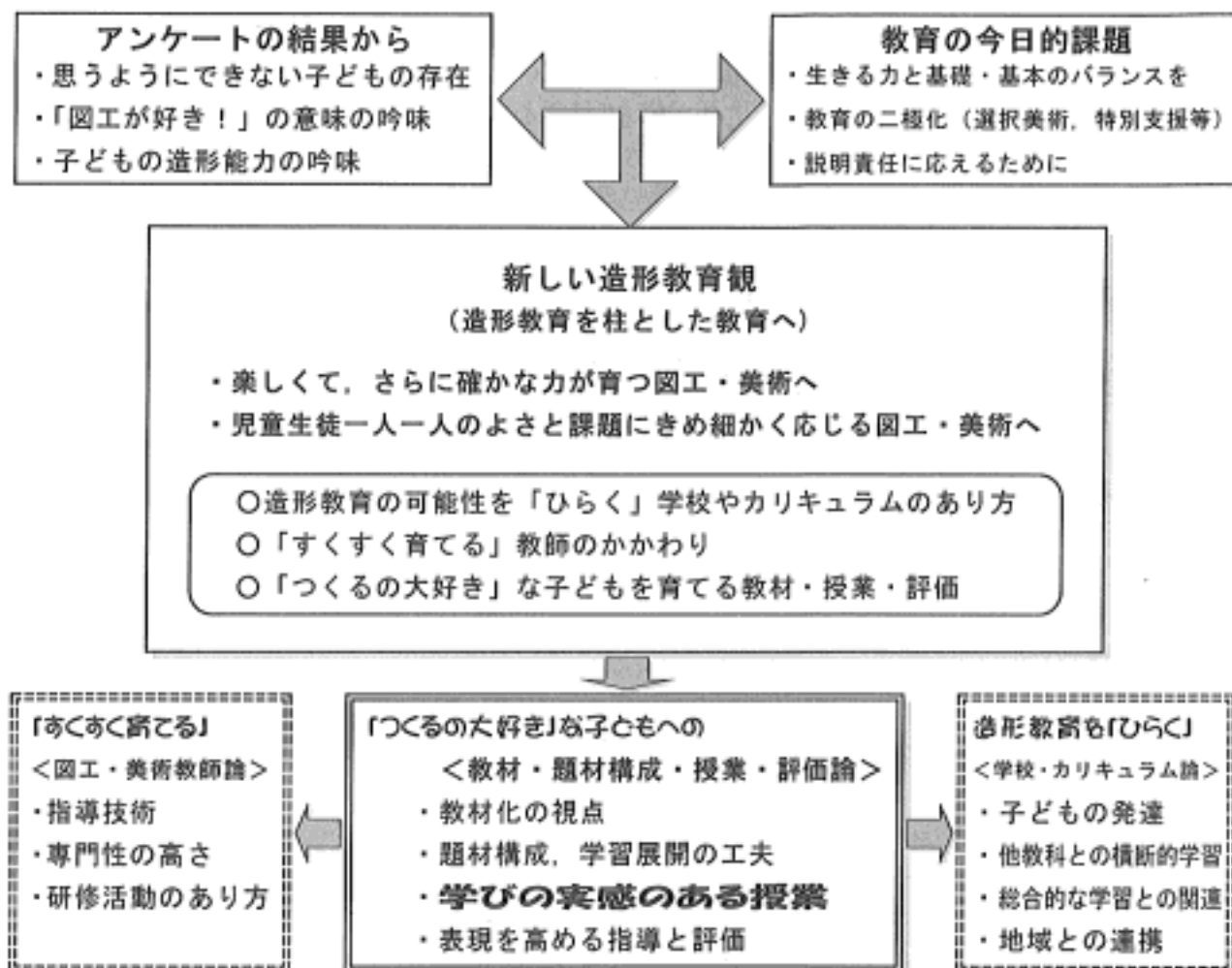
造形教育の価値や可能性の発信

地域

子ども

保護者

研究全体図



第56回全道造形教育研究大会／札幌大会 ～造形教育の価値や可能性を発信～

くらしと造形 (日常生活に生きる造形)	こころと造形 (造形による教育・心の教育)	つながる造形 (造形を介した新しい可能性)
<ul style="list-style-type: none"> ・造形の生活化 ・生活を豊かにする造形 ・機能美の追究、環境と造形 <p>等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己を表現する造形 ・美的感動体験 ・文化の理解（鑑賞） <p>等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションとして ・他教科との関連 ・地域、異校種との連携 ・癒しとしての造形 <p>等</p>

～各授業で～

評価（見取り）

○教材化の視点
○題材構成の工夫

本時の授業

指導（教師のかかわり）

「造形のWA」による題材の考え方

【3つの扉の考え方に基づく題材開発】

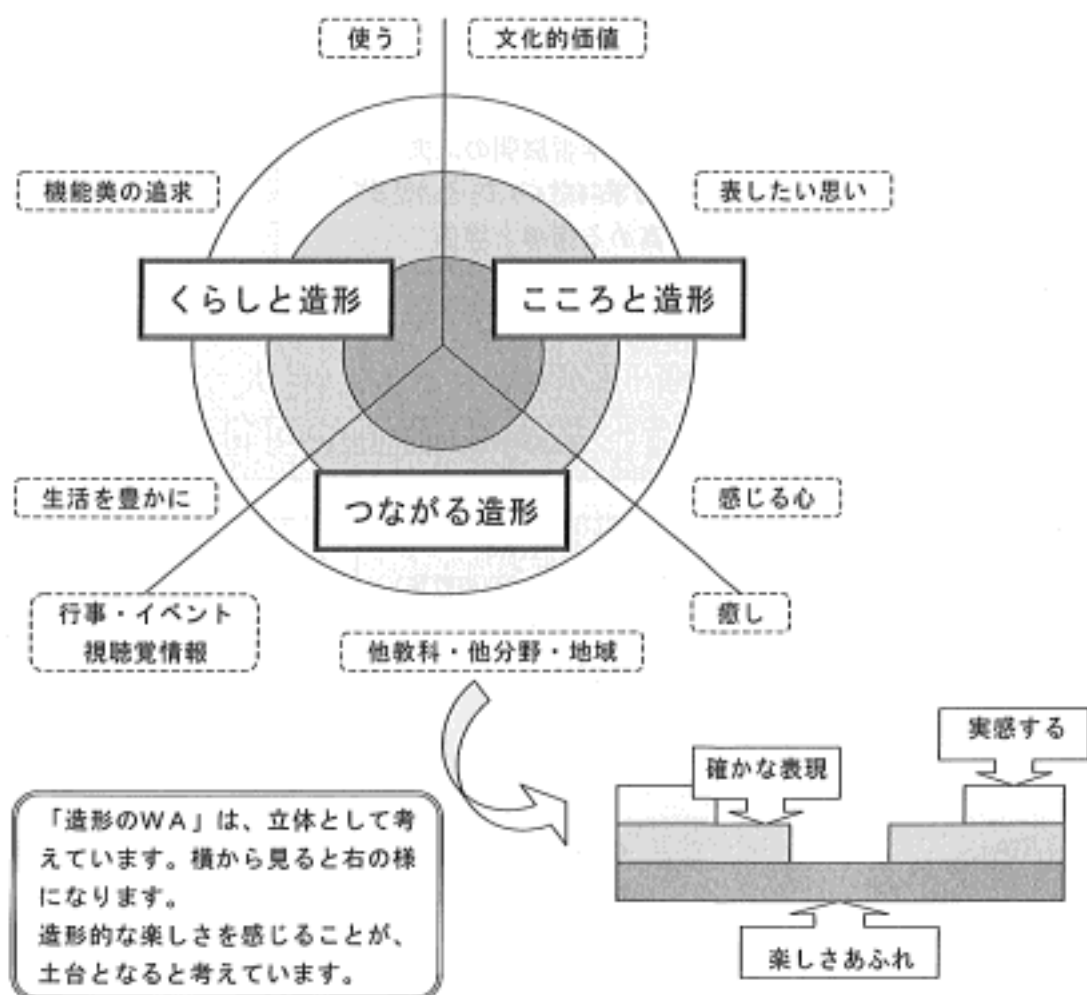
私たちは、実際の授業づくりに向けて「造形のWA」をつくり、各題材が研究理論のどこに位置づくのかを確かめてきました。この「造形のWA」は、実践者が自分の題材開発傾向をふり返る手立てとなります。ですから、偏りのない年間カリキュラムづくりのもとになると考えます。「造形のWA」から、今の子どもの実態に即した連盟独自の領域論も構築していきたいと考えています。

〈全道造形教育研究大会／札幌大会研究主題〉

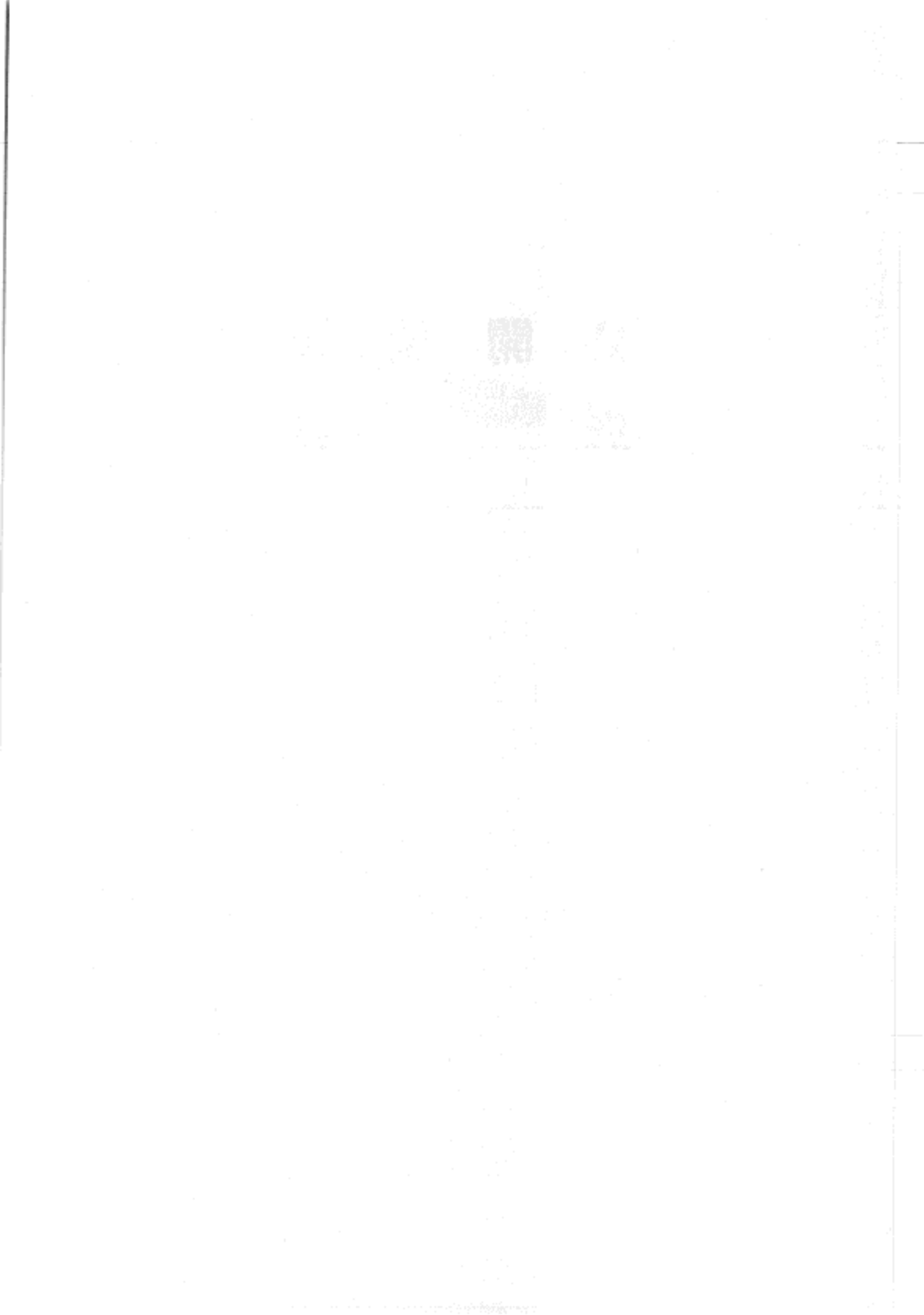
楽しさあふれ、確かな表現を実感する造形教育

研究主題を実現する題材の要件

- 「楽しさ」・・・五感を働かせ、造形的な楽しさが感じられる題材
- 「確かな表現」・・・造形的な思考力や表現力が高められる題材
- 「実感」・・・よさや課題を自覚することから、有能感や効力感を高められる題材



公 開 授 業
提 言



★大会テーマ★ 造形教育を「ひらき」、「すくすく育て」、「つくるの大好き」な子どもを

くらしと造形



タイムスケジュール

9:00 9:15 9:30 9:45 10:00 10:15

小学2年「とんだ?とんだ!」 八子晋嗣 4F 視聴覚室

中学2年「カラフルな焼き皿」 八子正人 4F 図工室

小学4年「つなげて、すてき ながめて、きれい」 岩井久根 3F 音楽室

くらしと造形

札幌市立上野幌東小学校 山 薫

生活とのつながりを 深め、心を潤す造形

児童・生徒の造形表現は、図工室・美術室での活動として収束するのではなく、生活そのものの中につながりをもち、広がることで、より一層豊かな展開が可能となります。生活とのつながりは、授業における表現そのものを見直し高めていくきっかけになるとともに、児童・生徒が、造形表現を人が生きていく上で必要不可欠な活動であると認識することにつながっていきます。



使って楽しむ、遊んで楽しむ『用』飾って楽しむ『美』

そこで、この冊では、児童・生徒の「くらし」と「造形」の結び付きを強めるために、大きく『用』と『美』から「文化としてのくらしの中に生きる造形」「くらし・環境を共有する造形」と視点を定めました。こうした視点に基づく教材化を行うことで、造形表現がその楽しさを通して心を開放させるだけでなく、確かな表現を実現している手応えを得ることができるものとなると考えます。

文化としてのくらし の中に生きる造形

造形表現活動によって生み出される作品は、生活の場で活用されてこそ一層の美しさや楽しさを得るものがあります。生活の中で実際に使うことは、その機能を実際だたせ、制作に対する明確な意識を児童・生徒にもたせることとなります。また、生活に適用することができたかを振り返ることが、よりよい作品を生み出す原動力につながります。生活の中で関わる造形には、伝統や文化としてくらしの中に生き続けている造形も数多くあります。そのような造形に、目を向けさせ、より「くらし」とのつながりを意識させていきます。

生活の場で「使う」「遊ぶ」
伝統や文化の中で生きる

くらし・環境を共有 する造形

制作した作品によって生活を美しく飾ることは、児童・生徒にとって表現の満足を一層高めるものとなります。作品は飾る空間の影響を受けると同時に空間にも働きかけるという相互的な関係の中に位置づけられます。作品を飾ることによって自分が楽しくなり、その環境を共有することで周りにもその楽しさを分かち合うことができます。このことから、児童・生徒は自分の表現に見直しをかけ、よりよい表現を求めています。

生活を豊かにする

生活とつながる造形

「材料」「用具」や「場所」など、造形活動を構成する要素は児童・生徒にとって身近なものです。しかし、身近さゆえに、生活とのつながりとしては意識されていないことが多いと思います。発想や構想のきっかけとなる造形要素が、自分たちの生活と強く結び付いていることを改めて感じられるような教材化を工夫していきます。

また、「くらし」とは児童・生徒にとって、リアルな今の生活そのものです。マンガや音楽・ファッションなど、児童・生徒が強い関心を示すサブカルチャーとつながる題材も開発していけると考えています。



身近な環境を楽しい空間に
変えていく

【題材について】

自分たちが生活している校内に目を向けて、人の出入りや風の流れ、空間の広さや高さなどの特徴を感じ取りながら、場所に合う音をつくり出す活動を通して、発想力や創造的な技能を高めていく。

【準備】アルミ缶、竹、紙筒、フィルムケース、貝殻、カップ、鈴など

【活動の流れ】

- ① 音や写真から音のある風景を想像して、自分たちもつくりだそうという意欲をもつ。
- ② どんな音のある風景にするか、校内から探し、合う音をイメージする。
- ③ 音が響くように材料や組み合わせ方を工夫してつくる
- ④ できた作品を校内に飾り、音を出して楽しみながら鑑賞する。



●題材2 ● 『心地よく楽しく暮らす』

4時間 (中学2年)

身近な環境を見つめ直す

【題材について】

生活の中に生きるデザインを鑑賞させながら、モノに込められた、機能性と美という2つの視点に気づかせ、自らもデザインに取り組むことで、積極的に生活や環境にはたらきかけていく意識をもたせる。

【準備】作品の図版、マグネット、付箋、ワークシート

【活動の流れ】

イサムノグチのスプーンや森正洋のカップを鑑賞し、機能性と美という視点を通してデザインの良さを感じ取る。そこから自分の身近な環境を見つめ直し、自らも試作デザインに取り組むことで、生活を共有する人への思いを、造形表現として発信する。

試作デザインの方法は、短時間で取り組めるものとし、ドローイングや粘土などで表現する。制作後は、自分の作品を実物投影機で映し出し、鑑賞交流会を行う。





『とんだ? とんだ!』

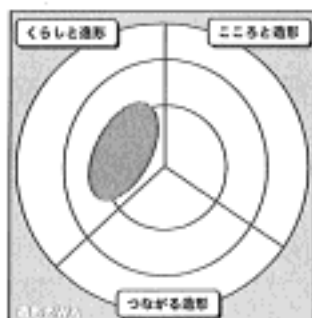
指導者 八子 晋嗣
竹内 むつ

1. 課との関連

本題材は、中心となる素材として子どもにとって身近なペットボトルを取り上げた。くらしの中で使っていて、見慣れている物なのに発想ひとつで形を変え、

違う使い方ができるようになる。この体験は新鮮な驚きや、楽しさを子どもに与えるだろう。

そして、つくったもので遊ぶ時、子どものくらしはまた一つ広がり、自分の日常を楽しくする喜びを味わう。身の回りを新しい視点で見つめ、工夫をしていこうとする姿勢をもつようになっていくと考える。



2. 題材について (教材性)

本題材の魅力のひとつは、ペットボトルのもつ新しい可能性の発見である。ただの容器という見方から、バネとして使えるという発想の転換は、子どもにとって程よい造形的な刺激となる。そして意欲的に身近な材料を生かして、自分の生活を楽しくしていく力を育てていけると考えた。

3. 題材の目標

・自分なりの工夫をして、とぶおもちゃを楽しくつくろうとしている。

(造形への関心・意欲・態度)

・バネのしくみを使って、楽しいとぶおもちゃをつくらることができる。

(発想・構想の能力)

・適切な材料で壊れにくいおもちゃをつくらることができる。

(創造的な技能)

・できたおもちゃで楽しく遊び、よさを見つけることができる。

(鑑賞の能力)

4. 大会テーマとの関連

■造形教育を「ひらく」

自分なりの発想で楽しいおもちゃをつくり、遊ぶことで図工の楽しさを味わう。またペットボトルという「もの」が自分の活動によって変化し楽しく友達といっしょに遊べる「こと」に気づく。こうした実感を通じて図工に対する子どもの思いをさらにひらかせていきたい。

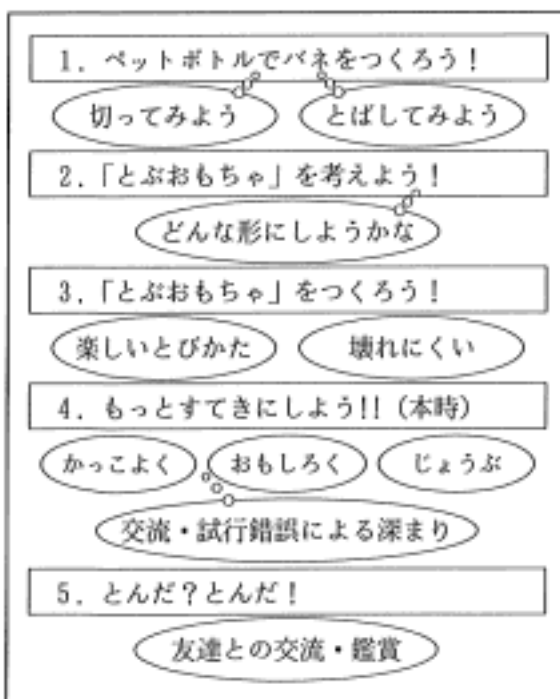
■「すくすく」育て

ペットボトルの持つ魅力(弾力・透明性など)を感じさせたい。そして材料の特徴を生かして自分だけの「とぶおもちゃ」をつくることで、生活の中から自分にとって新しい意味や価値を見つけ出していくことの大切さを実感させたい。

■「つくるの大好き！」な子ども

楽しく試しながらつくることを通して、「とぶおもちゃ」のよさを自分も友達も共に認め合い、自ら進んで取り組むことの喜びを感じ、次の活動へ向かう前向きな姿を見せてくれることを期待している。


5. 題材の流れ (5時間扱い・本時4/5)



6. 本時の目標

- ペットボトルをバネとして使って、自分なりに楽しい「とぶおもちゃ」を考えることができる。(発想・構想の能力)
- 楽しく、何度もくりかえして遊ぶことのできるおもちゃをつくることのできる。(創造的な技能)

7. 本時の展開

主な学習活動	教師のかかわり
<p>ペットボトルを自分で切ってバネをつくり、材料の性質について体験的に理解を深めてきた。自分なりの発想で「とぶおもちゃ」を考え、自分や友達の考えのよさに気づき意欲をさらに高めてきている。</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 15%;">かたちが かっこよく</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 15%;">おもしろい とびかた</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 15%;">じょうぶに</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>「とぶおもちゃ」をつくりあげよう！</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>もっとすてきにしよう！</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>もっとすてきなおもちゃが できたよ!!</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>すてきに とんだ? とんだ!</p> </div> <p style="text-align: center;">この次は、友達のものといっしょに遊ぼう!</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 形の発想は、具体物も抽象的なものも同じように認められるように関わる。 • 接合はカラービニールテープを使う。 • 友達との交流や、試行錯誤を通して学習を深めさせる。 • 壊れやすい子には、壊れにくい工夫を考えさせる。 • とびにくい子にはとびやすい方法を見つけさせる。 <p>技 楽しく何度もくりかえして遊ぶことのできるおもちゃをつくることのできる。</p>

『つなげて、すてき ながめて、きれい』

指導者 岩井 久根

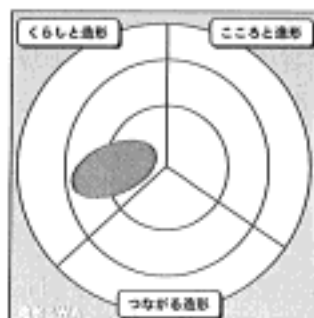


1. 扉との関連

普段は飲み物を飲むときに使っているストロー。しかし、使い方を変えて工夫をすると、思いもなかった物に変化する。

中学年の子どもたちは、一つの物

を与えるとじっくりと向かい合ってそこから発想を広げていくのが好きである。今回はストローに目を向けさせ、きれいな飾りをつくることを通して、身の回りにあるものに積極的に働きかけ、生活を楽しむ心を育てたい。



2. 題材について（教材性）

本題材では、ストローを主材料としている。

ストローのよさは、切り込みを入れて簡単に長い直線や大きな円につなぐことができることである。

子どもたちはつないだ形をもとに、東ねたり組み合わせたりしながら、立体的なものへと想像を広げることができる。

本題材を通して空間を楽しく飾る発想や感覚を育てていけると考えた。

3. 題材の目標

- ・ストローのできる直線や曲線からなる形の面白さを味わおうとする。

（造形への関心・意欲・態度）

- ・ストローの特徴を生かして、空間をきれいにかざるものを考えることができる。

（発想・構想の能力）

- ・ストローのつなぎ方や全体の形を工夫して表すことができる。

（創造的な技能）

- ・美しさや面白さなどを感じる力を生かして自分や友達の作品を見ることができる。

（鑑賞の能力）

4. 大会テーマとの関連

■造形教育を「ひらく」

身の回りの素材を生かして、自分が働きかけることにより空間を構成していくことの楽しさを味わう。

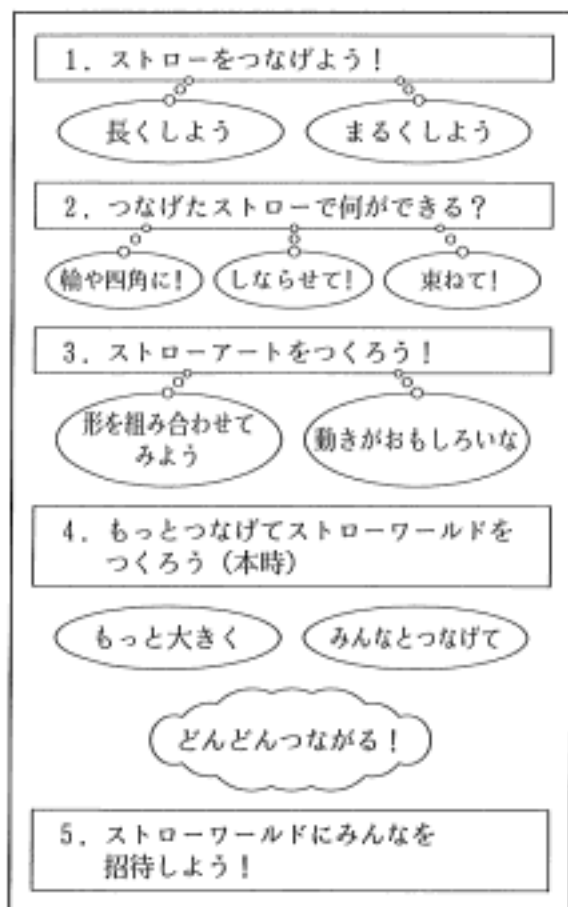
■「すくすく」育て

一人一人で作っていた作品を、飾ったり友達とつなげたりする活動を通して、子どもたちに自分を取りまく大きな空間を感じさせたい。そのために、子どもたちが互いの活動のよさに気づくよう声かけをし、活動を広げていきたい。

■「つくるの大好き！」な子ども

本時では、自分の作品とみんなの作品が次第につながっていく。友達や空間とつながった作品を見ることで、楽しいなという思いがふくらみ、空間いっぱい活動を広げていく姿を期待している。

5. 題材の流れ（5時間扱い・本時4/5）



6. 本時の目標

- ・自分と友達の商品を、置いたりつないだりして空間を通して、空間を楽しむかざりかたを考える。
(発想・構想の能力)
- ・自分や友達の商品を見て、形や商品のつながりの美しさや面白さを感じる。
(鑑賞)

7. 本時の展開

主な学習活動	教師のかかわり
<p>前時まで ストローをつなげたり組み合わせたりして形をつくり、できた形『ストローアート』を飾ったり、友達とつなげたくなったりしている。</p> <p>みんなの『ストローアート』をかざってみよう。</p> <p>もっと大きくしたいな みんなとつなげたいな もっとふやしたいな</p> <p>もっとすてきなストローワールドにしよう！</p> <p>もっと じょうぶに… ストローをつけたそう いいこと 思いついた！</p> <p>同じ形を ふやそう つなげて つなげて… 新しい形をつくらう</p> <p>もっと たくさん みんなで ならべよう みんなと つなげよう ストローの棒で つなげたら…</p> <p>近くに置くと いいかんじ！</p> <p>教室いっぱい 広がったよ！ つなげて見たら おもしろいね！</p> <p>ながめてきれい！</p> <p>次は、ストローワールドにみんなを招待しよう！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を飾った様子から、一人一人に活動の見通しをもたせる。 ・前時の活動を想起し、制作のヒントを得られる掲示を工夫する。 ・活動に困っている児童には、友達の活動を参考にさせ励ましていく。 ・立たせたい、つるしたいなど、児童の思いに合わせて技能面の支援をする。 ・互いのコミュニケーションがうまくいくように、机間指導する。 発 自分と友達の商品を、置いたりつないだりして、空間を楽しむかざり方を考えることができる。 ・作品と自分の距離や位置を変えて見るよう促す。



『カラフルな本焼き皿』 工芸（やきもの）

指導者 八子 正人

1. 厚との関連性

本題材は、くらしの中の衣食住の「食」に注目してみたい。最近では給食の食器も磁器食器に変わり、食への豊かな発想が広がっている。

「用」と「美」

のあり方も考えて、そこに生徒の意思をそそぎ込むことによって作品に生命が宿り、見る人に新たな感動が伝わっていくのである。そこで、「使う」と「生活を豊かに」について生徒に考えさせたい。

「機能美」にあまり触れていないのは、今回は色彩を考慮することなので、形から機能を深く追求していくことは避けている。その分、色を考えて自由に配色できることに集中させたい。



2. 題材について（教材性）

粘土という素材は生徒たちにとって親しみのある素材である。昨年の生徒たちが粘土に喜々として取り組む姿をみて、より楽しい内容を題材に取り入れてみた。今回は、陶芸の「色」の楽しさを感じてほしいので、形は直径20cm、15cmの円形のみとした。粘土への加飾は、スタンプによる表面の模様つけ程度にすることで、生徒の気持ちを「色」に向けさせたい。また、2枚制作することから、1枚目はアイデアスケッチどおりに、2枚目はそこから感じたことを元に絵付けする。

3. 題材の目標

・使う皿、鑑賞する皿を考えた上で、カラフルな色の組み合わせを考えようとする。

（造形への関心・意欲・態度）

・粘土や釉薬の素材、用具を理解した上で、アイデアを描き、制作方法をすることができる。

（発想・構想の能力）

・「用と美」を考え、独創的なアイデアをスケッチや皿に加えることができる。（創造的な技能）

・制作工程の中で他と協力しながら、お互いのスケッチや作品の良さを感じ合いながら制作できる。（鑑賞の能力）

4. 大会テーマとの関連

■造形教育を「ひらく」

生活に使われる皿から、自分と家庭、ひいては社会に目を開かせたい。さらに、食べ物を載せて使う「用」、壁に飾る装飾の「美」を感じさせたい。

■「すくすく」育て

粘土を正しく扱う基礎的・基本的な技能を育てていながら、伸びやかな感性を刺激してより良い自己表現を目指すことができるようにしたい。

■「つくるの大好き！」な子ども

人の諸感覚を働かせて、色付けの楽しさ、使う・飾るおもしろさを体験させたい。そのため発想の段階から、スケッチに色をつけたり、「用」と「美」をふまえた上で、豊かなアイデアが広がるように取り組ませたい。

5. 題材の流れ（5時間扱い・本時4/5）

1時間目 導入、目標の設定

・「用」と「美」の説明・和と洋の違い・授業の目的

アイデアスケッチに着彩

・大きさを指定・皿の完成イメージを持つ。

2時間目 制作

・お皿の型紙を用意しておく・ボウルに押しつけて、くぼんだ形にする・装飾模様もつける。

3時間目 制作

・前時と同じで2枚目を作る。

→乾燥して →素焼き750℃

4時間目 制作、顔料の色付け作業（本時）

・アイデアスケッチ通り、顔料と釉薬をつける。
・2枚目は顔料と釉薬を自由につける。

→本焼き1230℃

5時間目 まとめ 後日に皿の鑑賞

6. 本時の目標

- 8種類の釉薬、顔料クレヨンなどの素材の違いや用具の扱いを理解した上で、アイデアスケッチをもとに制作することができる。さらに、発想を広げて2枚目の制作に取り組むことができる。

(発想・構想の能力、創造的な技能)

- 仲間と協力し、「用」と「美」を考えながら、意欲的に制作に取り組もうとする。

(造形への関心・意欲・態度)

7. 本時の展開

主な学習活動	教師のかかわり
<ul style="list-style-type: none"> 授業前に用具を準備しておく。 各自の素焼き皿2枚を教卓から持っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 釉薬セット、顔料クレヨン、筆、カップなど各種用意しておく。
<p>①自分のクロッキーブックに描いた「カラフルな皿」のデザインを見る。</p> <p>②自分のデザインを確認する。 作りたい皿のイメージが膨らむ。 「作品のイメージ(タイトル)を考えよう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの確認 本時の目標 「1枚目はアイデアどおりに」 「2枚目はそこから考えて」
<p>1枚目の皿に塗る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>自分のアイデアスケッチ通りに釉薬や顔料を塗る</p> </div> <p style="text-align: center;">↑</p> <p>この場面で、2枚目をどうしようか考える。「対にしようか」「反対色を塗ろうか」「1つは使う、1つは飾る」と考える。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>アイデアスケッチに多少の追加や変更を自分なりに入れて、釉薬や顔料を塗る</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px; width: fit-content; margin-left: 150px;"> <p>自分の1枚目のアイデア通りに、2枚目も同じ釉薬を塗る</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px; width: fit-content; margin-left: 150px;"> <p>1枚目とは違ったアイデアで、2枚目を塗る事前に、ある程度のイメージをもっている</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px; width: fit-content; margin-left: 150px;"> <p>アイデアの変更した方針のまま、2枚目の同じ釉薬を塗る</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px; width: fit-content; margin-left: 150px;"> <p>さらに、当日ひらめいたイメージを、さらに広げて、釉薬を塗る</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 顔料や釉薬は混ぜないようにする。 塗り直しができないのであせらずに塗る。 机間巡視をしながら、生徒のイメージを聞いて、それが、2枚目に生きてくるようにアドバイスする。
<p>5、6人の生徒が、作品を持って見せる。 これを繰り返して、全員が鑑賞し合えるようにする。</p>	<p>「用」と「美」、「自分の創意工夫」など発表のポイントを提示する。</p>



『生活に生かせる粘土』

指導者 松本 和彦

1. 扉との関連

「生活とつながる造形」という視点で提言を考えた。作品が生活の中で使われる時、そこにはつくった人の気持ちが表れる。「いつまでも大切にしたい」「家族に使ってもらいたい」という強い動機付けが子どもの創作意欲を高めていく。そして、出来上がった段階で作品に対する愛着心もわいてくる。今回は粘土を取り上げ、そこにガラスという身近な材料を組み合わせた。出来上がった作品から子どもが新たな驚きや発見をし、いつまでも使っていきたいという気持ちをもたせたいと考えた。



2. 題材について（教材性）

粘土は土いじりの遊び感覚に似ていて楽しい。そして自分が納得いくまで何度でも作り直せるというよさがある。また、素焼きした後は硬くていつまでも使えるものとなり、身近に置いておくことができる。今回はガラスを入れ、素焼きにちょっとひと工夫くわえることで、「わぁ、きれい」「宝石みたい」という感動が、子どもたちの作品に対する思いを高めていくのではないかと考えた。

3. 題材の目標

- ・自分なりのこだわりを持ちながら意欲的に取り組もうとする。（造形への関心意欲態度）
- ・具体的に使う場面を想像しながら自分のイメージを広げて作る。（発想構想の能力）
- ・粘土の特性を生かしながら必要な技能を適切に使うことができる。（創造的な技能）
- ・自分や友達の表現のよさやガラスのもつ美しさを感じ取る。（鑑賞の能力）

4. 大会テーマとの関連

■造形教育を「ひらく」

具体的に作品を使っている自分や家族の姿を想像しながら「こんなものをつくってみたい!」という欲求を形にしていくのが図工の面白さである。自分の活動に満足感を覚えると次の活動への強い原動力となると考える。

■「すすく」育て

自分なりの価値観をもって活動したり、友達の良さを感じ取ったりする感性は友達同士のかかわりの中で育つ。お互いのよさに気づくような働きかけをおこなった。

■「つくるの大好き!」な子ども

作ることが好きということは、自分の作品が思うように仕上がったり、偶発的な美しさや驚きがあった瞬間に生まれるものである。子どもたちがガラスのもつ美しさに気づいていく瞬間を共有できるようにしたいと考えた。

5. 題材の流れ



紐作りや板作りで出来上がりをイメージしながら器を作る。



乾燥させた器に様々な色のガラスを、分量やレイアウトを工夫して入れる。

集中して取り組む姿

まとめに・・・

ちょっとしたひと工夫で作品ががらりと変わることがある。ガラスの溶け具合による偶発的な模様にも子どもたちは喜びを感じていた。



『「飾る」を意識した造形活動のススメ』

指導者 松葉 英明

1. 扉との関連

「くらしと造形」という扉の中の、「生活を豊かにする造形」という視点に焦点を絞った。制作した作品を「飾る」ことは、生活する空間に「美」をもたらし、生活を豊かにすると考える。



造形活動が授業の中だけで完結するのではなく、普段生活する場所とつながりをもつことで、児童・生徒にとってはより大きな表現の満足が得られることになる。その喜びが、さらによりよい表現を求めた、新たな造形活動につながるだろう。

2. 「飾る」こと

どのくらいの生徒が、どのようなものを飾っているのか、飾っていない場合はその理由と作品がどうなっているのかを、アンケートで調べた。(別紙1)

飾っているのは、じっくりと手をかけた作品がほとんどである。時間をかけて制作した分、作品に対する愛着が増し、「飾っておこう」という気持ちになるのだと思われる。時数削減のため短時間題材が増えたが、長時間題材にあえて取り組むことも必要なことではないだろうか。

飾らない理由は「自分では飾るほどのできだと思っていないから」「飾る場所がないから」というものが多かった。「いいものができたら飾りたい」「飾りやすい小さい作品なら飾る」という声もあった。作品の出来に満足でき、さらにそれが飾りやすいものであれば、飾っておきたいと考えている生徒は少なくない。

一方飾っている生徒の感想の中には、「作ったかがある」「家族にキレイと言われてうれしい」「作っていた時のことを思い出すので、できれば全ての作品を飾りたい」「自分の作品が部屋に飾られていると気持ちが良い」などの肯定的な言葉が多かった。作品を飾ることがくらしに彩りを与え、本人や家族の心に潤いをもたらしたことが見て取れる。飾ることの意義は確かにあるといえる。

3. 大会テーマとの関連

■造形教育を「ひらく」

作品をくらしの中に飾ることは、造形活動とはどんな活動なのかを、言葉よりも分かりやすく、保護者を含む家族ひいては社会全体に説明し、造形活動を社会に向けて「ひらく」役割を果たすことになると思う。

■「すくすく」育て

子どもが「すくすく」と伸びやかに成長するためには、成長を見守る保護者・家族の存在が不可欠である。くらしの中にある作品は、家族間の話題をもたらす、子どもの成長を確認する材料ともなる。

■「つくるの大好き！」な子ども

「自分の作品が飾られている」ということは、「自分の存在が認められている」ということである。認められた実感が子どもに喜びをもたらす。その喜びが新たな造形活動への意欲となり、「つくるの大好き！」な子どもとなる。

4. 実際に飾っている様子



〈本人の感想〉

- ・親戚に自分が作ったことを説明して、ほめられたりするとうれしい。
- ・これからもよくできたものは飾りたい。

〈保護者の感想〉

- ・前の作品と比べて、子どもの成長を実感できる。
- ・お客さんが話題にしてくれることもあり、自慢できることの一つ。

まとめに・・・

アンケートや取材を通して、作品を飾ることが、作った本人や家族の心にプラスの効果をもたらすことが改めて分かった。今後は導入時にその話をして、飾りたくなる作品の制作を促そうと思う。



★大会テーマ★ 造形教育を「ひらき」、「すくすく育て」、「つくるの大好き」な子どもを



タイムスケジュール

9:00 9:15 9:30 9:45 10:00 10:15

年長「Bくみ わくわくランド」 佐々木瑞美・内田芳江 3F 多目的室

高校複数校「映像メディア表現」 川上 勉 2F 家庭科室

小学3年「彫刻美術館の音楽会」 森實祐里 3F 会議室

小学2年「むくむく わくわく」 池田武彦 1F 4年1組
～大きくなった ほく・わたし～

中学2年「思いをかたちに」 市川雅基 2F 6年2組

こころと造形

札幌市立宮の丘中学校 石川 早苗
札幌市立伏見小学校 湯浅 大吾

手とこころの出会い

すべては「こころ」から…

小さな子供が紙とクレヨンを手にした時、自分の世界にひたり、ごく自然に表現活動が始まる。一見意味のないなぐり描きに見えるその中には「色や形」で表現された一人一人の「表したい思い」がある。このような自己表現の喜びは長い年月を経て「造形」という文化になった。の社会において造形活動は多様化し、子供たちをとりまく造形環境には驚くべきものがある。しかし、すべての造形活動は感じる「こころ」とそれを「表したい思い」から始まることにはかわりはない。

この扉では教育としての子供の「表したい思い＝感じるこころ」と「思いの表現＝表す力」を支えていくことを大切に、研究主題「楽しさあふれ、確かな表現を実感する造形教育」を実現する手だてを探りたい。

表わしたい思いから始まる造形

子供たちが「色やかたちで自己表現」する時、その根底にある「表したい思い」を大切にしなければならない。また、表現の手だてでは教師が一方的に与えるものではなく、子供自身が表現する過程で獲得するものでありたい。作品制作時における子供同士の作品交流も表現技能を高めるためだけでなく、「表したい思い」を耕すこと、つまり自己表現への意欲を高めるためにも有効な手だてである。

感じるこころを大切にしたい造形

美しさを「こころ」で感じることは自己表現活動のスタートであるが、最近の子供たちの生活体験や人との関わりの希薄さを考えると、我々教師はまず美しさに目をむけたり、友達の感動に共感するといった「感じるこころ」を育てることを大切にしたい。授業は美的感動体験との出会いの場であり、その繰り返しの中で子供達に「豊かな情操」が根付くのである。

文化的価値を通じた造形

自己表現活動は文化として、長い年月を経て伝承されてきている。表現した技法の発見や描画材、造形素材の開発も先人が「こころ」を表現する手だてとして行われてきた。その現在に至るまで先人が積み上げた世界観の素晴らしさを味わうことは最も端的な美的感動体である。先人の作品を鑑賞するだけでなく、伝承されてきた表現活動に実際に触れるなどの体験を通し自分の表現活動への意欲を再確認させ、造形活動の文化的価値にも気づかせることができる。

いつの時代でも造形活動は「こころ」からはじまる。その子供たちの「こころ」と手を出合わせ、「こころ」を成長させることを我々教師はこからも忘れてはならないはずである。



・『布がふわり』の授業より

感じるころはひとつ

幼稚園～高校
昨年度プレ大会の様子

思いが一杯

●題材1 ● 『つくったもので遊ぶ 遊びながらつくる』 (幼稚園年小～年長)

【題材について】子供一人一人が生活からイメージを膨らませ、思い思いの遊びに取り組んでいく。その中で必要感が生まれ自然と造形活動が始まる。

【準備】子供たちの遊びの意欲を促す造形環境

【活動の流れ】園内外のいろいろな環境を生かして思い思いのごっこ遊びが始まる。それぞれに活動しながら、遊びの繋がりが

生まれてくる。



感じるころ

●題材2 ● 『布がふわり～豊西の玄関ホールを素敵に変えよう』 (小学校5年生)

【題材について】玄関ホールの場所の特徴から想像を広げ、布などを使って空間をつくりかえ、つくった場所の心地よさを味わう。

【準備】ガーゼ反 (30×300cm) 絵の具・パステル・クレヨンなど

【活動の流れ】模様を施したガーゼ反をハンガーを使い天井からつるし、布の薄く光を通す感じや風などに軽く揺れる感じなど紙にはない質感や柔らかさを生かし、結んだり編んだりしながら玄関ホール思わず人が集う空間につくかえていく。

交流で広がる思い

●題材3 ● 『かたちをまるごとかんじてみよう』 (中学校1年)

【題材について】自然物を観察し立体的に表現することの中に発見や感動体験が生まれる。それをもとに作品をつくり、交流することで思いを伝え合う造形活動につなげ、自己表現活動への意欲を高めていける題材とした。

【準備】紙粘土、粘土ペラ、丸棒、紙、針金、ヤスリ、キリ、はさみ、ペンチ、のこぎり、カッター、木工用ボンド、ツヤ出し塗料、絵の具

【活動の流れ】野菜や果物の観察後、多様な道具を使い粘土で、本物そっくりに制作、その後グループごとに互いの作品を鑑賞し、各自の作品に込めた思いを交流し合う。「自己効力感」や「他者受容感」を感じることで、その交流から効果的な表現方法を発見したり、自己の作品を見つめなおすことで、自分が本当に表したかった思いを再確認し制作を続け完成をめざす。



文化的価値

●題材4 ● 『原画をみつめて～ルオーの10年』 (高等学校1年)

【題材について】普段接することができない本物の作品に対して真剣に向き合う体験を通して、自分が感じるできない部分の存在を理解し、他人が感じたもののイメージを理解し鑑賞する。

【準備】ルオーの原画 (版画集『ミセレーレ』)、スケッチブック

【活動の流れ】ルオーという画家について知り作品を鑑賞することで、互いの作品への思いを認め合い、同時に本物の芸術作品がもつ文化的価値を知る。



「わくわくランド 海で遊ぼう」

指導者 佐々木瑠美
内田 芳恵

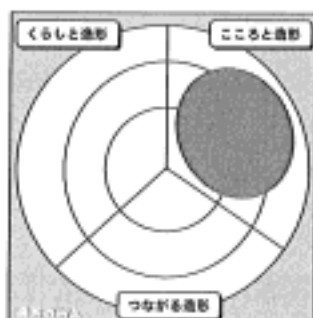
1. 厚との関連

幼児は遊びを通じて「こころ」を表します。

子どもたちが自分を表現するためには「遊びたい」に応える開放的な環境が必要です。

充実した遊びを援助するために、造形スペース（月1の自由参加の造形ワークショップ）で大きなテーマとしている4つのキーワードが、なかま・感性・世界・ひとりひとりです。

子どもたちは遊びを通じ、自分のペースで納得のいくまで自分を表現していきます。



2. 題材について（教材性）

普段の保育では、ひとつの造形遊びをみんなが同じく取り組むことが多いのですが、えがく、つくる、あそぶ、のための環境が同時に準備されているところが魅力です。

そのため、ひとりひとりの発想で、遊びを発展して行くことができます。

作ったものに描いたり、描いたものにくっつけたり、などの自由な制作の取り組みができ、遊んだことから、作ったり、描いたりイメージをふくらませて遊べます。

造形あそびを楽しむために→

えがく・つくる・あそぶは課程を大切に→

作品ができる達成感→

持ち帰った作品でもう一度遊ぼう→

遊んだことから次のあそびへ

という造形スペースのもう一つのテーマがクラスの中で展開します。

3. 題材の目標

- ・納得のいくまでしっかりとつくってあそぶ
（造形への関心・意欲・態度）

- ・しっかりと見立てて作っていく、あそびによってさらにつくる。（発想・構造の能力）
- ・遊び方を工夫したり、遊んだイメージのためにさらにつくったりする。（創造的な技能）
- 互いの作品をつかっていたのしく遊ぶ。（鑑賞の能力）

4. 大会テーマとの関連

■ひらく

世界とであうー自分の周りの様々な世界と向き合うことがあそびをひろげます。

■すくすく

なかまー友達と造形あそびをつうじてころがひびきあうことで表現が豊かになります。ひとりひとりが「生きる」に結びつく時間。

■つくるのだいすき

感性をあそびからーものと取り組み、自由にかんじるころが表現します。

5. 題材の流れ

わくわくランド1 ムシのおうちをつくろう

棒をつくる 木をつくる

花や葉っぱをつくる

ムシをつくる ムシで遊ぶ

わくわくランド2 森の仲間であそぼう

おうちをつくる 動物をつくる

動物で遊ぶ

わくわくランド3 海の仲間で遊ぼう（本時）

海をつくる 海の生き物をつくる

作った海であそぶ

わくわくランド4 オバケの国で遊ぼう

オバケをつくる 影絵であそぶ

劇あそび

6. 本時の目標

- どんどん楽しい海になる。
- 一人ひとりの発想で自由にB組の海を創ろう。
- みんなで遊んで心もふくらむ。
- みんなでつくった達成感を味わおう。

7. 本時の展開

主な学習活動	教師のかかわり
<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">うみのいきものの様子を思い浮かべる</p>	<p>今日の遊び方を紹介する。</p> <p>海を作って遊ぶことに興味を持てるよう伝える。</p> <p>イメージをふくらませて海の生き物が作れるように、働きかける。</p> <p>海のお話や水族館遠足などから、様々な海の生き物を思い出す。</p> <p>(大きさ、色、形、模様など多様な表現ができることに気づくように) 海の生き物は生きている(顔の表情、手足など)</p> <p>表情や生き物の性格などを受け止め、伝える。</p> <p>どんどん楽しい海になっていくことを伝える。</p> <p>釣った生き物(作品)を大切に、次のあそびに使うことを伝える。</p> <p>次のあそび(ポリテント)のため、片づけを促す。</p> <p>良い片付けは、次回の遊びに活かせることを伝える。</p> <p>友達を協力しテントの海に入ることができるように援助する。</p> <p>自分たちの作品を味わい認め合う。</p> <p>活動を振り返り楽しかった遊び方や、作品の美しさを認める。次回の遊びへの期待を高める。</p>

『わくわく むくむく～大きくなったぼく・わたし～』

指導者 池田 武彦



1. 扉との関連

「こころと造形」の中でも、「表したい思い」を大切にしたい題材である。

表現技能を教師が一方的に与えるのではなく子どもが「自分の思い」を色や形に表す過程で獲得するものでありたい。

そのため、本題材では、お話をもとに自分の思いを自由に膨らませて描くという「お話の絵」に取り組むことで、子どもたち一人一人の思いを大切にしたい造形活動ができると考えた。



2. 題材について（教材性）

本題材の魅力は、お話をきっかけに自由に自分の世界を想像できることである。自分の体が大きくなったら、どんなことをしてみたいかという投げかけをし、一人一人の「やってみたい。」を認めていくことである。

また、自分の体を紙を切り貼りして表すことで、手足を自由に動かしてポーズを決めることができ、試しながら製作ができるのも魅力のひとつである。自分の周りを表す方法についても、様々な造形技法を活用させたいと考えている。

3. 題材の目標

- ・お話をもとに想像しながら、自分の思いを表そうとする。（造形への関心・意欲・態度）
- ・お話をもとに、大きくなった自分を想像して発想をふくらませる。（発想・構想の能力）
- ・自分の思いを、切り貼りしたり、描いたりと自由に表すことができる。

（創造的な技能）

- ・友達や自分の作品を楽しくみる。

（鑑賞の能力）

4. 大会テーマとの関連

■造形教育を「ひらく」

お話から想像をし、自分と周りのものとのかわりを意識しながら「思い」を確かなものにしていく。そして、その思いを色や形で表しながら、見つめ直すことで、より自分の思いを確かなものにしていくことができる。自分・作品との対話をしながら思いを達成するという自己実現ができると考える。

■「すくすく」育て

一人ひとりの「大きくなったら」を大切にするために、対話をしながらお話作りをしていく。また、その思いを達成するために、様々な造形技法も活用できるように準備をする。

■「つくるの大好き！」な子ども

教師はもちろん、子どもたち一人ひとりが、お互いの想像の世界を認め合うとすることで、より「描くのは楽しい！」という実感をもつことができる。そうすることで、自分のお話に浸りながら表現をすることができると思う。

5. 題材の流れ（5時間扱い 本時4/5）



6. 本時の目標

- ・紙に貼った「大きくなった自分」の周りの世界を、お話を考えながら想像し、発想を広げることができる。
(発想や構想の能力)
- ・自分の表したいものを、描画材を活用してのびのびと描くことができる。
(創造的な技能)

7. 本時の展開 (4/5時間目)

主な学習活動	教師のかかわり
<p>「大きくなった、ぼく・わたし」のお話を聞いて、大きくなってやってみたいことを想像したよ。そして、大きくなった自分をつかって画用紙に貼り付けたよ。</p>	
<p>山の上に手を伸ばしてるよ。 学校の屋上をのぞいたよ。 月寒公園をまたいだよ。</p> <p>大きくなった自分の周りには、なにがあるのかな？</p> <p>山や建物があるよ。 動物がいるよ。 お友達が見ているよ。</p> <p>まわりの世界を描こう！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のお話を思い出し、イメージできるようにする。
<p>きれいな色で描きたいな。 どんどん描いて増やしたいな。 「自分」に付け足したいな。</p> <p>もっと楽しい世界にしたいな</p> <p>おおきくなった、ぼくわたしの世界ができあがってきたよ。うれしいな！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージを生み出そうとしている子には、どんなお話だったのかをもとに、一緒に考えてアドバイスをする。 発 自分の想像した世界を表現するために、どんなものがまわりにあるのかをイメージすることができたか。 ・思いを表すための表現方法をアドバイスする。 創 自分の想像した世界を表現するために、描画材を工夫して、表すことができたか。
<p>もう少しで、完成するよ。できたら、みんなに見てもらいたいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動を振り返り、次時への意欲を喚起する。

『彫刻の森の音楽会』

指導者 森實 祐里



1. 扉との関連

身近にある彫刻作品に触れた子どもたちの感じるこころをなによりも大切にしたい。

通学路に面して置かれている彫刻作品「奏でる乙女」を見て、手に触れて感じた子どもたちの第一印象を起点にして森の演奏会まで思いをふくらませたい。



2. 題材について（教材性）

森の音楽会をイメージし、形にしていくことで子どもの思いをふくらませたい。演奏する楽器はひとりひとりの思いを大切に選択する。また、子どもの表現の自由を大切にしたいものでイメージにあった色彩や形づくりに熱中させていきたい。個々の思いを様々な表現や技法を試しながら表現していけるようにし、そこにひとりひとりの感じた心が表現できるようにかかわっていききたい。

3. 題材の目標

- ・音楽会への思いをふくらませて表すことを楽しもうとする。（造形への関心・意欲・態度）
- ・演奏する自分や背景などを自由に想像し、「彫刻の森の音楽会」を構想を広げる。（発想・構想の能力）
- ・表現したいことを効果的に表すために、描画材などを選択し、表現方法を工夫することができる。（創造的な技能）
- ・みんなで作りあげた「彫刻の森の音楽会」を互いのよさを認め合いながら味わう。（鑑賞の能力）

4. 大会テーマとの関連

■造形活動を「ひらく」

野外彫刻は単なる置物ではない。作品に直接触れながら、彫刻と感情を自由に交流させ、彫刻作品との対話を大事にしていきたい。

彫刻に接したときに感じる心を起点にして、造形的な思いをふくらませていく鑑賞と表現との環流を図っていききたい。

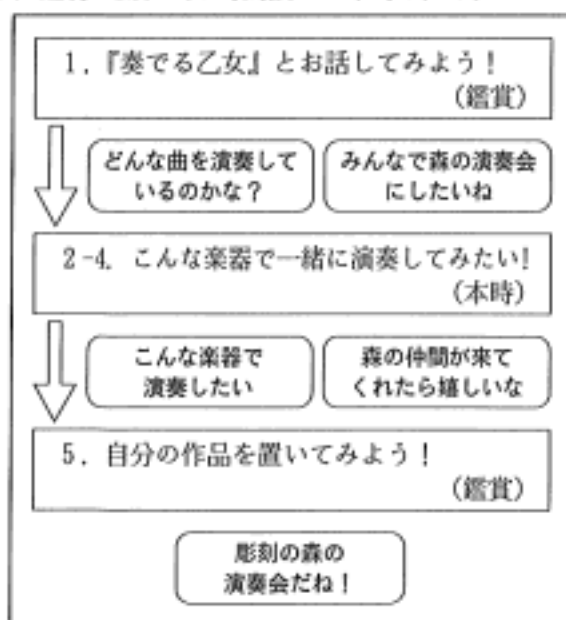
■「すくすく」育て

子どもが体全体で感じ、考え、つくるといった学びの構造を何よりも大事にしていく。そこで、彫刻の鑑賞から感覚を通して感じたものをイメージに結ぶ。そして、お話の絵が生まれるという創造的学習で子どもたちは表現への自由を獲得していけるようにしていきたい。

■「つくるの大好き！」な子ども

自分の思いを表現するためにいろいろな描画材料に触れ、いろいろ試みることを通して、新たな発想が生まれ、自分の表現につながる。そして、できあがった作品を彫刻の周りにならべることに、ひとりからみんなで作る楽しさを十分に体験し、一層成就感を味わえと考える。

5. 題材の流れ（7時間扱い・本時3/5）



6. 本時の目標

- 次々と想いを広げ、それを形に表すための描画材をいろいろ試しながら、表現方法を工夫することができる。
(創造的な技能)

7. 本時の展開 (3/5時間)

主な学習活動	教師のかかわり
<p>ローラーのあとの「演奏する自分」ははがしたら、どのようになっているかな？</p>	
<p>見えなくなった自分を取り戻そう！ そこに、演奏する自分を描こう！</p> <p>こんな楽器を持たせたいな</p> <p>まわりはどんな風にしようか</p> <p>どんな顔で奏でているようにしようかな</p> <p>演奏会にどんな洋服を着せていくのかな？</p> <p>楽器だけでなく自分も何かでつくろうかな</p> <p>ここは花畑にしたいな</p> <p>ここらへんは森の道なんだ</p> <p>演奏会だから、おしゃれさせよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「演奏する自分」の楽器やポーズを確かめてから、はがす。 子どもの表現を予想して描画材などを用意しておく。 子どもの表わしたいことを聞き出しながら、材料の選択や技法に対応する。 友達作品や自分の作品のよさや面白さを自覚させ、造形的刺激を交換する。
<p>演奏会の準備が進んだね！ まだまだ楽しくしたいね！</p>	
<p>みんなの作品を並べたら、「奏でる乙女」のまわりはどんなにかわるかな</p> <p>一緒に聞きに行く森の仲間を増やしたいな</p>	



『こころをかたちに』

指導者 市川 雅基

1. 扉との関連

本題材では、目には見えない自分のこころを形に表すイメージの世界をつくり上げる。感性を働かせて素材と触れ合う中から心の動きを敏感に感じ取り作品を



つくり上げることで、表現活動の面白さに気づかせたい。また、自分の思いや考えを形にできる喜びを味わうことで、自分を表現することに自信を持ち、力強く生きてほしいという願いがこの題材には込められている。

2. 題材について（教材性）

本題材の魅力のひとつは、自分の「こころ」を形にするという抽象的な表現方法を取り入れることによって、より自由な発想を持って表現活動に取り組むことができる点である。

粘土は可塑性が高く、手と粘土とのせめぎあいの中から表現意図に合った形を見つけ出すことができる。さらによりよい作品にしようとして、試行錯誤を繰り返していくことで、追究するところ（力）を身につけることができるに違いない。

3. 題材の目標

- ・自分の思いを形に表すことができる喜びを感じる。
- ・制作意図に合った表現方法を追究しようとする。
(造形への関心・意欲・態度)
- ・素材とのかかわりの中から、感性や想像力を働かせて心豊かな表現のための構想を練る。
(発想・構想の能力)
- ・素材と手とのかかわりを大切にしながら、用具や素材の性質を理解し、表現に生かす。
(創造的な技能)
- ・自他の作品を鑑賞し、よさや美しさを感じ取る。
(鑑賞の能力)

4. 大会テーマとの関連

■造形教育を「ひらく」

粘土と手とのかかわりの中で、葛藤しながらも粘り強く取り組み、自分らしい表現を目指し追究しようとするところをはぐむ。

また、感性や想像力を働かせてイメージを膨らませ、自由に形にすることで、自分の思いや考えを自信を持って表現していこうとする姿勢を養う。

■「すくすく」育て

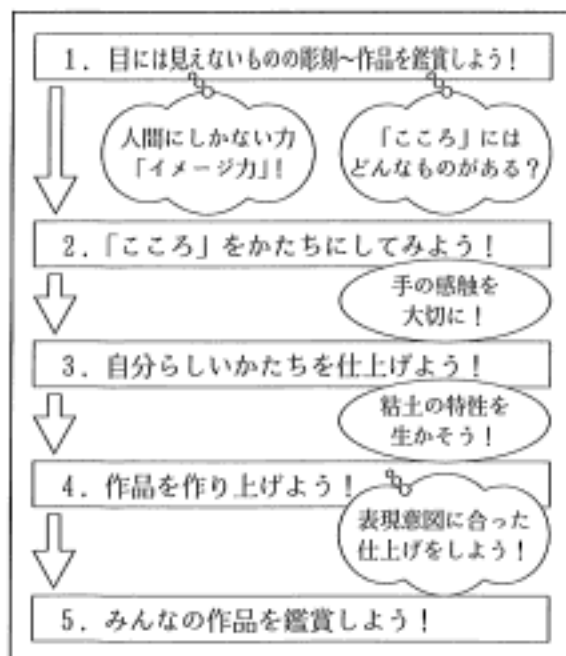
粘土の可塑性を最大限に生かし、思いや考えを自由に表現できる喜びと共に、自己肯定感を味わわせ、のびのびと表現させたい。

また、途中での作品交流を通して、「自分もやってみよう」という更なる意欲と、互いのよさや美しさを認め合う豊かなこころを養わせたい。

■「つくるの大好き！」な子ども

感性やイメージを働かせて作り上げた作品を自己評価し、さらに自分らしい表現を目指しもう一度練り上げ、つくり上げる。粘土と手とのふれあいの中から見つけ出した形から表現価値を見出し、意図を持って作品を完成させることで、自己表現の喜びを感じさせたい。



5. 題材の流れ（5時間扱い・本時2/5）



6. 本時の目標

- ・自分らしい表現を目指し、粘り強く制作に取り組む。 (関心・意欲・態度)
- ・思いやイメージを膨らませ、作品完成までの構想と計画を練る。 (発想・構想の能力)
- ・粘土や用具の特徴を理解し、工夫して作品をつくり上げる。 (創造的な技能)

7. 本時の展開

主 な 学 習 活 動	教 師 の か か わ り		
<p>【前時までの様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が表現したい「ころ」を石調粘土を使ってかたちに表してみた。 ・粘土とじかにふれあい、材質の特徴やよさを感じながらかたちをつくってみた。 			
<p>自分が表現したいころのイメージと、現在の作品のかたちを見比べる</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>さらに自分らしいかたちをつくるために計画を練ろう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配布し、前回の作品を振り返り、本時の目標を提示する。 		
<p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">◇つくっているうちに表現したいものが変わってもOK! (ころが変わるように作品も変わってもよい)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに制作計画を記入する。 		
			
<p style="border: 1px solid black; padding: 10px; background-color: #e0e0e0;"> 本時の目標 彫刻作品として仕上げよう！ </p>	<p>【発】 ワークシート・作品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“ころ”を自分なりの感じ方で捉え、形のイメージを練る。 		
<p>【ポイント】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① あらわしたい「ころ」を意識する。 ② 直感・ひらめき・イメージを大切に ③ みていて「いいなあ」と思ふかたちを目指そう。 	<p>【関】 制作の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分らしい表現を目指し、粘り強く制作に取り組む。 		
<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">完成をイメージしながら制作しよう！</p>	<p>【技】 作品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粘土や用具の特徴を理解し、工夫して作品を制作する。 		
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;"> 【形をどう仕上げるか？】 ・道具は何を使う？ ・カドを丸くする？角ばらせる？ ・折る？削る？ </td> <td style="padding: 5px;"> 【表面をどう仕上げるか？】 ・道具は何を使う？ ・つるつるにする？ ・デコボコにする？ </td> </tr> </table>	【形をどう仕上げるか？】 ・道具は何を使う？ ・カドを丸くする？角ばらせる？ ・折る？削る？	【表面をどう仕上げるか？】 ・道具は何を使う？ ・つるつるにする？ ・デコボコにする？	<ul style="list-style-type: none"> ・完成した生徒から後片付けを行う。 ・振り返りシートに取り組みについての自己評価を行う。
【形をどう仕上げるか？】 ・道具は何を使う？ ・カドを丸くする？角ばらせる？ ・折る？削る？	【表面をどう仕上げるか？】 ・道具は何を使う？ ・つるつるにする？ ・デコボコにする？		
			
<p style="border: 1px solid black; padding: 10px; background-color: #e0e0e0;"> 自分の「ころ」を表した作品完成！ </p>	<p>【次回の予告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かたちを整える。美しく仕上げる。 		

映像メディア表現『立体ゾートロープ』

指導者 札幌白陵高等学校 川上 勉

授業協力者 石川 雅昭(東海大四) 澤田 範明(清田) 本庄 陸志(南陵)
坂東 宏哉(手稲) 本田 勝哉(丘珠) 松井 茂樹(北広島)
鉢呂 彰敏(平岸) 齋藤 周(開成)

1. 扉との関連

今日、我々はいろいろなメディアを介して日常的に動く映像に接している。動く映像はそういう意味において、すでに新鮮な驚きの対象ではないのかもしれないが、たとえばフィリップブック(パラパラマンガ)のような、動画を作る最もプリミティブで単純な手法のものであっても、実際に作ってみると、絵画やデザインといった他の表現方法では感じることでできない新鮮な驚きや強い感動を受ける。

今回はそこからさらに一歩進んで、平面の動画ではなく、立体の造形物を動かすことに挑戦し、手で物を作る喜びと美的感動体験を同時に体験させたい。



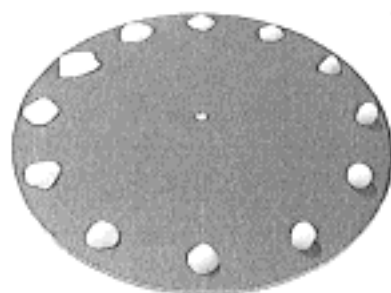
2. 題材について (教材性)

映像メディアの授業として立体ゾートロープを取り上げるのだが、今回はただ単純にアニメーションの原理やゾートロープの原理を理解するだけでなく、そこに手でものを作る、自己表現としての造形活動の要素を盛り込んだ授業を展開したい。

動く造形物といえばカルダールのモビールや伊藤隆道のモーターを使った彫刻を思い出す。これらは造形物に実際の動きを与え、動くことによって一個の純粋な造形作品として成り立つものである。今回はそのような本当に動く造形物を作るのではなく、ゾートロープという仕組みを利用し、目の錯覚によって「動いているように見える」立体を作るのであるが、アイデアしだいで色々な動きをするものを作ることが出来る。そういう意味において、造形物(彫刻)に、かたちが連続して変化するという時間軸を導入したものと捉え、動きそのものを自己表現の手段とし、変化するかたちそれ自体に意味を持たせた物を作らせたい。自分が作った立体物が目の前で動き出すことはそれだけでも単純に面白くインパクトを感じるものである。しかし、ただ面白い、楽しいで終わるのではなく、生徒にとって驚きとともに美的な造形活動を体験する授業としたい。

3. 題材の目標

- ①アニメーションの原理に興味を持ち、それを造形活動と結びつけ、積極的に作業することができる。(造形への関心・意欲・態度)
- ②造形に時間軸が加わることを理解し、変化するかたち自体に意味を持たせることができる。また、イメージ通りに動くようにユニットをデザインすることができる。(発想・構想の能力)
- ③ひとつひとつのユニット自体を造形物として作ることで、手作業による造形の楽しみを感じる。(造形的な技能)
- ④作品の鑑賞を通して、立体物が動いて見えることに驚き感動するとともに、それぞれの作品のテーマに意見・感想を持ち、今後の美的表現活動に活かす。(鑑賞の能力)



4. 題材の流れ

(7時間扱い・本時6.5/7・7/7)

導入	・アニメーションの仕組みを理解する。	0.5時間
構想	・テーマについて考える。 ・プリントに沿ってアイデアスケッチを作る。 ・グループごとに役割分担を考える。	1時間
制作	・アイデアスケッチにしたがってユニットを制作する。	4時間
	・ユニットを回転盤に取り付ける。 ・試験的に回転させてみる。	0.5時間 (本時)
鑑賞	・作品を発表する。 ・他のグループの作品を鑑賞する。	1時間 (本時)

5. 本時の目標

- ・前時までに各グループで制作した12個のユニットを回転盤に取り付け、ゾートローブを完成させる。試験的に回転させて意図したような動きをするか確認する。(発想・構想の能力)
- ・自分たちの作品の鑑賞を通して、自分たちが意図したこと、表現しなかった動き〈予想〉と、実際の動き〈結果〉を比較し、その違いを鑑賞者に発表する。(鑑賞の能力)
- ・他のグループの作品鑑賞を通して、それぞれの作品のテーマに意見・感想を持ち、今後の美的表現活動に活かす。(鑑賞の能力)

6. 本時の展開

主な学習活動	教師のかかわり
<p>前時までは、アイデアスケッチをもとに樹脂粘土を使って12個のユニットを作った。12個のユニットはグループで作業分担して作るが、ひとつひとつのユニットそれぞれが単なるパーツとしてではなく、ひとつの造形物となるように気持ちをこめて作っている。</p> <p>本時は、いよいよ12個のユニットを回転盤に取り付け、ゾートローブとして動かしてみる。イメージ通りに動き出すかどうか、期待と不安とともに、自分が作った造形物が目の前で動き出す驚きを感じさせたい。</p>	
<p>■制作意図、予想される動きをグループごとに発表する。(10分)</p>	<p>工夫した点などを発表の中で引き出すように質問を投げかける。</p>
<p>■前時までに制作したユニットを回転盤に取り付ける。(10分)</p>	<p>動きの流れを考慮した位置に固定するように指導。</p> <p>材料を配布する。 (両面テープ・ピン)</p>
<p>■試験的にゾートローブを動かしてみる。(15分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージ通りに動いて見えるか確認する。 ・位置のずれ等があれば修正する。 ・発表の準備をする。 	<p>生徒と一緒に動きを確認する。 作品の着想・アイデア等を質問し、発表の動機付けをする。</p> <p>プロジェクターの準備。</p>
<p>■グループごとに完成したゾートローブを発表する。(30分)</p> <p><input type="checkbox"/> プロジェクターでゾートローブをスクリーンに映す。</p> <p><input type="checkbox"/> 各グループの代表が作品についてコメントする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のグループの作品を鑑賞する。 	<p>ディスカッションによって発表を援助する。</p>
<p>■感想カードを記入する。(10分)</p>	<p>感想カードは後日印刷して配布する。</p>

『遊びの必要感やイメージが心を動かす』

提言者 川口いずみ

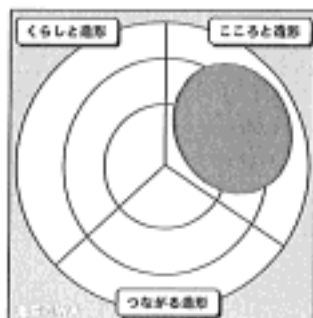


1. 扉との関連

幼児期の生活のほとんどを占めている遊びが、幼児の成長や発達を促す。

「おもしろそう」「やってみよう」「どうなるのかな」「またやろう」など心が動いて行動

する。遊び込む中でさらなる必要感やイメージが生まれ、心と手は常に連動しながら、感性や創造性をはぐくんでいく。



2. 題材について（教材性）

ごっこ遊びで幼児はイメージをふくらませ、「なりきる楽しさ」を味わう。幼児なりの経験や知識を生かし、遊びに必要なものをつくっていく。また、一人よりも教師や友達など一緒に遊ぶ相手がいるこそ楽しさが増す。幼児の発想から始まった遊びでも、実は先行経験を再現して遊んでいることも多い。そこに何が育っているのか可能性を見極めることが大切である。

3. 題材の目標（お化けごっこを例にして）

- 薄暗い雰囲気や狭さからイメージの世界に浸って楽しむ。
- すすんで友達と同じ扮装をしたり、同じ物を持ったりすることを楽しむ。
(造形への関心・意欲・態度)
- もっと怖くしよう、こんな風にしたらどうかななど自分なりの思いを表したり、必要な物を作ったりする。
(発想・構想の能力)
- お面や看板などをつくるために、新しい用具や素材を組み合わせたり、使ったりする。
(創造的な技能)
- 先生や友達のつくった物をまねしたり、さらにイメージをふくらませたりする。
(鑑賞の能力)

4. 大会テーマとの関連

■造形教育を「ひらく」

描いたりつくったりすることは、幼児の日常的な姿である。やりたいと思った時に自由に楽しめ

ること、十分な時間の中で繰り返し同じような取組に浸れることを大切にしたい。そのことを通して、満足感や達成感を味わったりできるようにしたい。

■「すくすく」育て

そのらしさがのびのびと表現でき、意欲的に描いたりつくったりする子どもを育てたい。個々の発達や技量を見極め、その子なりの精一杯の表現を引き出すようにしたい。

■「つくるの大好き！」な子ども

「つくるの大好き」な子どもを育てるためには、教師や友達との関係性が基盤となる。教師は幼児のイメージを汲み取りながらアイデアを投げかけたり、適切な素材や用具を提案したりし、遊びを支えていきたい。工夫したり試したりする姿を認め、伸ばしたいと考える。また、一緒に遊ぶ友達同士が互いに刺激し合うことで豊かな表現を楽しめるようにしたい。

5. 保育の流れ



「お化け屋敷を始めよう！」

お化けになって遊ぶ子供たち。お化けのお面や看板をつくって遊び始める。



「うらめしや〜」「ケケケケケ」

お客の3歳児を驚かすために隠れてから、「ワーッ!!」。

保育を振り返ってみると・・・

- お面を付けることでなりきる楽しさが増したり、仲間意識や一体感を生んだりした。
- 繰り返し遊んだ経験やイメージに共感して一緒に遊べる教師、驚いたりほめたりしてくれる3歳児の存在により、イメージが実現し遊びも活性化し、豊かな遊びになった。

『窓の向こうに見える想い ~素材(パステル)にふれ、ひたる活動で生まれた感動を表現に~』

提言者 宮田 珠世



1. 扉との関連

「感じる心」とは、何かに心を動かされることで心の底からわきあがってくる自然なものである。様々なものに自分の体や五感を使ってふれる中で、子どもは驚きや憧れ、楽しさなど多くのことを感じる。その感動から造形意欲が刺激され新たな発想が広がっていく経験を大事にしていきたい。

本題材ではパステルという子どもにとって新しい素材に出会い、それにふれる体験から生まれる感動を大切にしたい展開を図っていきいたいと考える。



2. 題材について (教材性)

本題材ではパステルを使ってどのような表現ができるか自由に取り組む活動から始まる。手や指先などを使って思いのままに色を広げ、重ねていくことができるパステルに子どもは様々な表現の可能性を感じるだろう。そこで発見したものが表現を工夫する際のこだわりにつながっていくと考える。

また、表現を楽しみながらできた作品を鑑賞し、どんなイメージが伝わるかを交流しあうことで、色や線、形などの要素の組み合わせから多様な感じ取り方ができると気付かせていく。そのことを生かして自分の伝えたいものイメージさせていきたい。

3. 題材の目標

- ・パステルを用いた表現の面白さやよさに気付く表現を楽しもうとする。
(造形への関心・意欲・態度)
- ・色調や面や線・形の組み合わせなどをもとに伝えたいイメージを構想する。
(発想・構想の能力)
- ・色調や面や線・形の組み合わせなどを工夫して伝えたいイメージを効果的に表すことができる。
(創造的な技能)
- ・発想の面白さや表現の工夫を認め合いながら、

抽象的なイメージの世界を味わう。

(鑑賞の能力)

4. 大会テーマとの関連

■造形教育を「ひらく」

素材にふれ、ひたる活動を通して子どもはその素材の特徴や扱い方に気づいていくと共に、色や形に表れてくるものを通して豊かにイメージを膨らませていく。それを自分のこころの中にあるものと結びつけていくことで、自分を表現することの楽しさを感じ取らせていきたい。

■「すくすく」育て

表現方法や出来上がったものを交流する場面を大事にしたい。その中で、自分の取り組みが確かなものへと価値付けられたり、友達の取り組みに共感し新たなよさを見つけたりすることにつながるだろう。それが『自分』を表現することの楽しさや喜びにつながっていくと考える。

■「つくるの大好き！」な子ども

「こんなイメージにしたいからこうやって…」と、発見した表現方法を用い、こだわりをもってイメージを表現しようとする子どもたち。自分が自分の手で自分のイメージを表現することができる喜びを感じさせていきたい。

5. 題材の流れ



「風が吹いてるみたい！」指でこするときに向きを工夫することで絵に動きが出るのを発見。



「指にパステルをつけて押すとあとがきれいだな。」これまでの経験とパステルの特長をあわせて試した結果、素敵な表現が生まれた。



互いの作品から感じたことを交流。色や線などイメージを表す要素に自然と気付いていった。

『水墨画で心はぐくむ～基礎演習から表現へ～』

提言者 高橋久美子



1. 扉との関連

「こころと造形」の扉では深淵な墨の濃淡の世界に生徒を誘う。思う存分墨に関わらせることにより、墨の表現の美しさを感じ取り、そこから新たに美しい世界を築こうとするところをはぐくむ授業である。また日本の伝統文化のよさも感じ取り、自国の文化の担い手としての自負や美しいものを愛するところをもってこれからの国際社会に生きてほしいという願いをこめた授業である。



2. 題材について（教材性）

奥入瀬渓流や十和田湖を、水墨で表すというこの題材の魅力は心を落ち着かせ、自分と向き合いながら表現していくという点にある。

自分の思いや深淵な美しさを際立たせるために、墨と筆を使いこなし、表現の仕方について自分に問いながら制作を進めていく中でこころがはぐくまれると考えている。

さらに本題材の関連題材として、落款の篆刻や鈕の彫刻というデザインや工芸の学習がある。このようなふくらみのある学習を展開することにより、多面的に生徒に働きかけ、豊かなこころをはぐくみたいと願っている。

3. 題材の目標

- 日本の伝統的な文化である水墨画のよさに気付き、基礎的な技術を身に付けようとする。また印象に残った事柄や風景を水墨画で表現しようとする。（関心・意欲・態度）
- 多様な筆使い・線の強弱・墨の五色（五彩）などの水墨画の技法を用いて表現法を考え、見学旅行で印象に残った事柄や風景の構想を練る。（発想や構想の能力）
- 見学旅行で印象に残った事柄や風景を、多様な

筆使い・線の強弱・墨の五色（五彩）などの技法を身に付け、創意工夫して表現に生かそうとする。（創造的な技能）

- 水墨画の独特な表現を理解し味わうとともに、日本の伝統的な文化を尊重していく態度をもつ。相互評価によって互いの作品のよさを味わう。（鑑賞の能力）

4. 大会テーマとの関連

■造形教育を「ひらく」

水墨の表現により自己実現し、将来を逞しく、また日本の伝統文化に触れたものとしてのアイデンティティをもってこれからの国際社会を生き抜く姿勢をはぐくみたい。

■「すくすく」育て

実演をしながら、水墨の表現の深淵な部分に触れることができるように個人（グループ）指導をする。一緒に表現を楽しむ中で、水墨を理解し、表現に対する意欲が持てるようにする。

■「つくるの大好き！」な子ども

たくさんの道具を用いなくても、手軽にしかもかっこよく墨の濃淡やにじみの効果が楽しめる水墨画に親しむことにより、芸術を愛し表現することを好きになる生徒をはぐくみたい。

5. 題材の流れ



- ①鑑賞「慧可断臂図」
- ②調墨・用筆の練習
- ③模写「慧可断臂図」
- ④実技テスト

⑤水墨画「見学旅行の思い出」制作

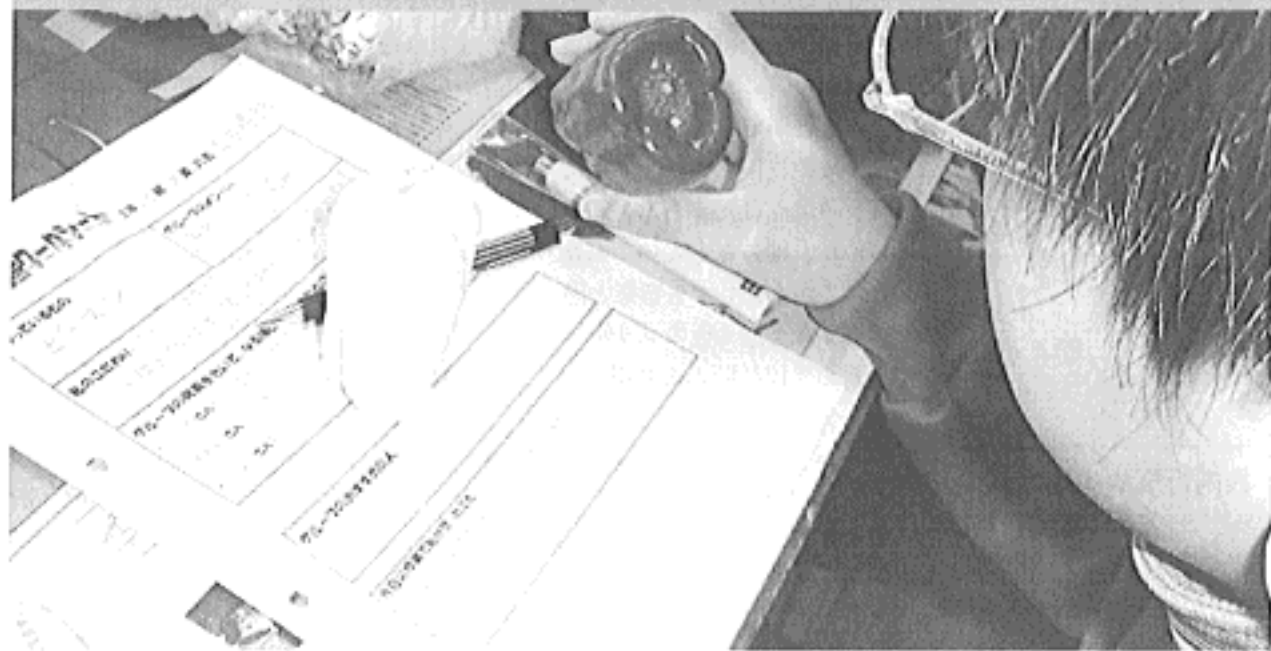
⑥鑑賞会

最初は難しい、と言っていましたが、筆で描くことが好きになったようです。



★大会テーマ★ 造形教育を「ひらき」「すくすく育て」「つくるの大好き」な子どもを

つながる造形



タイムスケジュール

9:00 9:15 9:30 9:45 10:00 10:15

中学1年「絵文字で伝えよう」 総内 徹 2F 6年1組

小学校全学年「すみにしつながるネット」 澄川西小学校全職員 3F 体育館

小学4年「古代からのおくりもの」 磯部雅之 校庭

つながる造形

指導者 八田 博之

すばらしい価値に
つながる造形自分とつながり
他者とつながる価値他教科・分野・地域・
異校種との連携、融合校内行事やイベント
とのつながり情報や知的財産
とのつながり情報のつながりは温かな
相手意識から癒し、癒されること
とのつながり

造形表現活動は、自分自身の様々な要素や力をつないで働かせ（自己内の対話）、同時にそれを楽しむうちに新たな価値が作り出されていく活動である。また、大きなものをつくろうとすれば、他者とのつながりなしには難しい。このように、子どもが自分自身を見つめ、持っている力や情報をつなぎ、さらに、他者を認め、他の価値と強くつながり合いながら、総合的に人として生きる力や豊かな心を高めていくことができる学習は、ものづくりの活動以外にはないようにさえ思う。

つながりの具体について考えてみると、他教科や分野でも造形的な表現の特徴を発揮する場面はたくさんあるし、学校という小さな社会だけでなく、学校のある地域や街、地方などとのつながりなどでも造形的な効果が生かされていることがよくある。本大会でも音楽と融合した造形表現活動があるが、感性を揺さぶり、知性に響く音と形や色のコラボレーションに期待したい。異校種のつながりでは、造形教育の異校種間のより滑らかなつながり（のりしろ）を意識した題材や子ども理解を大切にしていきたい。

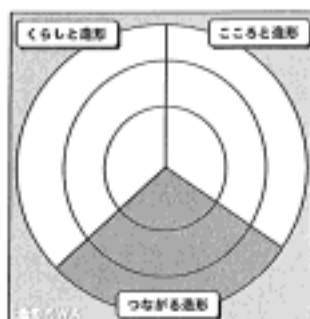
人と人がつながりを強く意識するとき、共感的活動や相互理解といった心のつながりが不可欠である。学校では、行事やイベントなどといった共同の活動に造形的な表現活動が生かされ、心のつながりを明確に、より強くしていることがある。本大会では、全校の子どもたちが異学年での活動につながり合い、2日目の音楽との融合にさらに発展していくダイナミックな取り組みがある。

複雑であり、速さや軽さを極端に重視した情報化の世の中。このような現代において人と人がしっかりと理解を深め、情報を正しく伝達していくには、よりわかりやすい情報の視覚化やビジュアルな相互理解が有効である。特に、自他の情報を形や色に変換するといった造形的なチャンネルは、高度な情報化の世の中ではおおいに求められることになる。

自分を取り巻く複雑で多様な情報の中から、自分に有益な情報を選び取ったり、他者に有益な情報を送り出したりするためには、他者を思いやる優しく温かな相手意識が不可欠であり、このような相手意識という他者とのつながりを創る学習が造形表現活動を通して育まれる学びのひとつであるといえる。



本稿では「つながる」という視点から造形のもつ大きな力を考えてきたが、忘れてはならないもうひとつの視点に「癒し、癒される力」がある。造形しているときの安らぎや、造形物に触れたときの心地よさなど造形には人を癒す力が内包されている。



医療の分野や障害を持つ人々とのつながりという視点での、ユニバーサルデザインやバリアフリーなどの考え方も、これらを具現化する方法として、造形的な思考や表現力はとても重要な意味をもっているといえる。

音楽と造形を
つなげる表現活動

●題材1 ● 「モノトーンの世界」

(小学校6年)

【題材について】

曲想の違う二つの曲を聴き、どちらかの曲を選んでその感じを墨を使って表す。曲想の違いが表現の違いとなって表れてくる。

【準備】 墨汁、版画用和紙、筆、刷毛、石や木の実、草葉、ストロー等

【活動の流れ】

題材の始めは、筆や刷毛以外のものを使っての表現を楽しむ活動を取り入れた。子供たちは、自然物や人工物での表現遊びを楽しみながらも、墨の濃淡の美しさや表現された形の面白さなどを味わっていた。

柔らかく落ち着いた感じのある感じのする「春の海」と、力強い感じの「北海太鼓」を聴き、そのどちらかの感じを表した。一人一人、思いのままに表現したが、「春の海」は淡い柔らかな曲線、「北海太鼓」は濃く力強い直線や丸型などの共通点が見られ、最後のお互いの作品の鑑賞場面では、お互いに表現の意図に気づいた交流が見られた。



心のつながりを
生む鑑賞

●題材2 ● 「イメージ図の構成」

(中学校2年)

【題材について】

美術の学習に取り組む意欲を揺さぶり、目覚めさせるために、1年生の時に観察スケッチが多かった生徒にそれを要しないデザイン領域に取り組んだ。

【準備】 鉛筆(HB)、ケント紙、ポスターカラー、演習用プリント

【活動の流れ】

言葉から連想するイメージを観察に頼らず、正方形や円・直線などの単純な図形をベースに少しずつ形を加えながら具体化・複雑化する。身近にあるものから、抽象名詞、ことわざや概念などの言葉など、個に応じて課題を選択させた。演習後、一人一人が表す言葉を自己決定し、作品枠へ下がき、配色の検討、着色を行った。仕上げに向かう段階でイメージ図形の伝わり方や構成の効果を友達とも確かめ合いながら、完成度を高めていった。生徒同士の交流は、自身の作品の完成度を高めようとする意欲を高めることにもつながった。



人へつなげる
表現を目指して

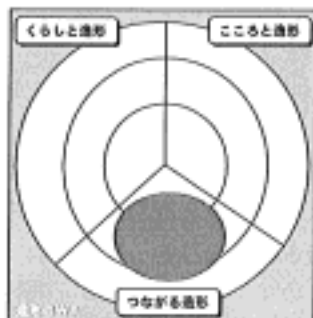
つながりから生まれ
る造形への意欲

「すみにしつながるネット」

指導者 澄川西小学校全教諭（代表 福島由紀子）

1. 扉との関連

スタートは一人一人の既習・経験（過去）につながる。全校児童351通りの思いと過去の経験から始まる造形活動はやがて友達との作品のつながりを見せたり、



同じ思いの子どもが集まって一緒につくったりするという人のつながりに広がったりする。自分の造形活動に満足してまわりが見えてくると、自分がつくったものが、体育館を变身させるという大きな造形活動の一部になっていると感じ、みんなで作った一体感が心をつなげるのである。

同じ空間を共有している、上学年を見て、次はあの活動をやってみたいなど、思いが未来につながっていく。一人一人が全体の大きな活動をついているという気づきこそが、子どもの有用感につながり、次の思いにつながっていくのである。

2. 題材について（教材性）

色と形と光と、体育館という場所と、そしてそこにいるみんなと楽しい造形活動を繰り広げたい。

低学年は主に床を使って色画用紙や、色水などをならべたりつなげたりする。中学年は体育館の側面キャットウォークからつり下げる活動と、体育館の窓に透ける素材の形を並べて、ステンドグラスをつくる活動。高学年は体育館の上部を使い自分たちでデザインした布で体育館を变身させていく。みんなでいつもの何もない体育館を変えていくことを楽しみたい。

みんなと一緒に活動する心地よさや楽しさがつくりながら感じられ、終わったときに感動の余韻と名残惜しさが一人一人もてるよう活動を進めていきたい。

3. 題材の目標

■低学年

身近な自然物や人工の材料の形や色などの特徴から表したいものやことを思いつき、体全体を働かせながら、並べる、つなぐ、積むなどの楽しい造形活動をする。

■中学年

材料や場所の特徴などから発想を広げ、友達と協力したり新しい表現を試みたりしながら楽しい造形活動をする。

■高学年

自分で表したいことと場所や環境などの特徴を考え合わせ、楽しさや調和について発想を広げたり、構想したりしながら環境を造形的に構成するなど、楽しい造形活動をする。

4. 大会テーマとの関連

■造形教育を「ひらく」

造形遊びは心をひらく活動である。さらに夢中になってつくった全校造形は全校の心をつなぎ、心がつながることで全校の子どもの心をひらく。

■「すくすく」育て

全職員で学年に応じたかわりをした。鑑賞では全員が一体感をもつことができ、造形活動の可能性が広がったり、次の活動への期待感がふくらんだりするように場を工夫したい。

■「つくるの大好き！」な子ども

体育館が自分たちの手で変わった姿を想像することは楽しい。変化していく空間に入っているのもとても楽しい。楽しさはつくる気持ちをふくらませ、連続させる。

5. 本時の目標

体育館で、全校のみんなと一緒に楽しんで造形活動をしようとする。

(関心・意欲・態度)

6. 本時の展開

5年生 ふわり

布のやわらかさがふわりとゆれるよ

6年生 ほっかり

布のやわらかさはくらしにつながるよ

いやしの空間にも、すてきな洋服にも

2年生 ならべて・つんで

いっぱいペットボトルをならべよう

いっぱいつんで高くなったよ

1年生

ならべて・つなげて

色画用紙でつくった形をにじもりたいに、ならべよう！

4年生 きらり

光が透けて見えて、下に映ってキャットウォークが大きなスタンドグラスになるよ

3年生 ひらり

七夕の飾りみたいに光が透けてひらひらゆれるよ



『古代からのおくりもの』

指導者 磯部 雅之

1. 扉との関連

本題材は、他教科との素材の共有により、より広い視野に立ちながら造形活動に取り組むことをねらいとしている。総合的な学習や社会・理科などの学習内容



と結びつけることによることで、目的(何のために)や背景(どういうことから)などが明確になり、造形活動に広がりが出てくると考える。また、子供たちが地域や題材に携わっている人々とのつながりを考えることにより、造形活動の有用感を感じ取ったり、作品の価値を高めたりすることもできる。

2. 題材について(教材性)

本題材は、学校周辺で発掘されている「札幌軟石」を素材としている。本校では総合的な学習や札幌や地域の歴史の学習などにとり上げている。また採掘場跡地につくられた新しい公園「石山緑地公園」も近隣にあり、訪れる機会も多い。

札幌軟石は火山灰が凝結した「凝灰岩」の一種である。石は硬いものであるという子供の概念は実際に触ったり削ってみることで驚きが変わる。「軟らかい石」という新しい素材を使って、のびのびと表現できる活動になることを願っている。

3. 題材の目標

- ・石の感触を味わいながら楽しく活動しようとする。(造形への関心・意欲・態度)
- ・場所に合わせて石を組み合わせたり積んだりして思いを表すことができる。(発想・構想の能力)
- ・削ったり穴をあけたり並べたりしながら、石の形を自由に変えることができる。(創造的な技能)
- ・友達と協力し、作品を見合うことで、自他のよさを感じ取ることができる。(鑑賞の能力)

4. 大会テーマとの関連

■造形教育を「ひらく」

札幌の歴史と密接に関係があり、地域との結びつきが大変深い「札幌軟石」を後世に残して新しい活用を願う人々の思いに触れながら、自分なりに札幌軟石の生かし方を考える。

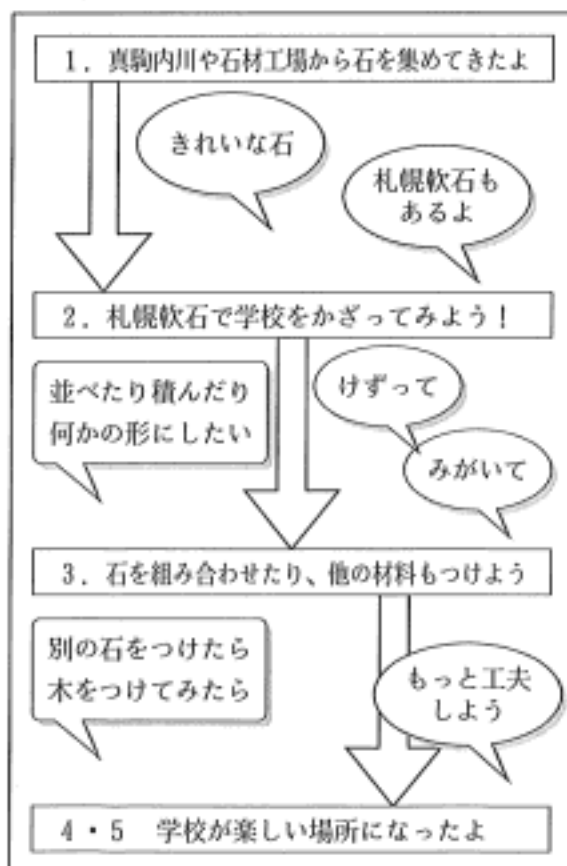
■「すくすく」育て

軟らかい石という普段なかなか触れることのできない素材を目の前にして、大胆に削ったり穴をあけてみたり、他の素材と組み合わせてみたりしながら、自由な発想を巡らせ、青空の下でのびのびと活動する。

■「つくるの大好き！」な子ども

一人でじっくりと取り組むのも、友達と一緒にわいわいがやがややるのもよい。石を目の前にして、たくましく立ち向かっていく子どもたち。汗を流しながら熱中している姿を期待している。

5. 題材の流れ(5時間扱い・本時5/5)



6. 本時の目標

- 学校周辺の場所と、札幌軟石との組み合わせを考えて、並べたり積んだりしながら、自分の思いを表すことができる。 (発想・構想の能力)
- 札幌軟石を削ったり、磨いたり、穴をあけたりしながら、つくりたい形にしたり、石同士や他の石、自然材、身辺材などと組み合わせて、自分の思いを表すことができる。 (創造的な技能)

7. 本時の展開

主な学習活動	教師のかかわり
<p>子どもたちは、真駒内川や近くの石材工場から、札幌軟石をはじめ、さまざまな石を採取してきている。道具を使って、石を削ったり、穴をあけたり、磨いたりしながら、自分の作りたいものを発想している。また、活動が進んでいく中で、石を積み上げたり、並べたりしながら、自分の思いを表そうとしている子もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 前時までの活動を想起させるために写真パネルなどを提示したり、実際の自然物などを紹介する。 • 実際に活動を行う学校周辺を見たり、地図を提示したりしながら、意欲を高める。 • 製作活動では、道具の使い方や材料の扱い方などに留意するように支援を行う。また、材料や道具の不足がないように、予備の準備をしておく。 <p>技 石を削ったり、磨いたり、穴をあけたりしながら形を、変えることができる。</p> <p>発 場所と材料をどう組み合わせるのかを考えながら、自分の思いを表現することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 出来上がった作品をデジタルカメラなどを使って記録することで、作品の交流を行う。

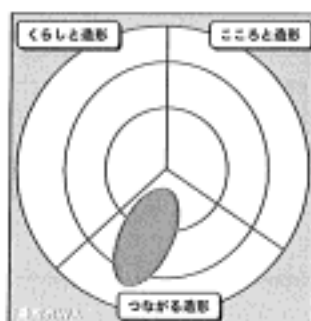
立体絵文字をつくろう

指導者 館内 徹



1. 扉との関連

視覚伝達デザインは、それ自体が積極的に人とつながりを求めるものです。漢字が読めない小さな子どもや外国の方にも意味が伝わるような『絵文字』はその代表的なものです。



絵文字を創る側の「伝えたい」思いと見る側の「わかりたい」思いが作品を通してつながっていきます。この絵文字を立体的に表現し、背景や展示環境の工夫をさせたのは、伝達のための『絵文字』としてだけではなく、作品が展示空間や装飾空間に、実在感をもって積極的に関わりをもっていく存在になっていくのではないかと考えたからです。自分の作品がその環境につながり、あるいはショーウィンドウのように周囲も作品の中に取り込んでいくようなものになっていくのではと考えています。

2. 題材について（教材性）

本題材は、視覚伝達デザインのひとつとして授業によく取り入れられている『絵文字』制作を発展させたものです。

本題材の魅力のひとつは、『絵文字』のアイデアを練る楽しさです。元の文字の形を生かすなどの条件を満たしながら、漢字の持つ意味や自分の考えをユーモアを交えながら考えて形にしていって造形活動の達成感です。

もうひとつは立体化することによる表現手段の多様化です。さまざまな素材を組み合わせることで、新たな表現方法を獲得したり、発見し、表現の幅を広げたりできることです。

3. 題材の目標

- 絵文字のおもしろさを知り、個性的な絵文字を作り出そうとする意欲をもつ。
(造形への関心・意欲・態度)
- 個性的な絵文字を考え出そうと努力する。また、立体にするために材料を工夫して作品の構想を練ることができる。
(発想・構想の能力)
- 基礎的な用具を使い、素材の特性を生かして作品を製作することができる。
(創造的な技能)
- 絵文字のおもしろさを味わい、より効果的な見せ方や展示方法や考えることができる。
(鑑賞の能力)

4. 大会テーマとの関連

■造形活動を「ひらく」

個性を生かした作品づくりによる成就感と、それぞれの作品のよさを認め合う喜び。

■「すくすく」育て

自由な発想を生かすための材料や製作方法の工夫や指導を心がけたい。

■「つくるの大好き！」な子ども

自分の発想のよさを生かし、個性的な作品を創り上げる。


5. 題材の流れ（8時間扱い・本時7/8）

1. 絵文字をつくろう		
絵文字って何？	どんな風につくるのかな	ワークシートで絵文字をつくる練習しよう
2. いろいろな漢字の絵文字を考えよう		
どんな漢字を使おうか？	どんな絵に置き換えようか？	できるだけたくさんスケッチしよう
3. 絵文字を立体にしてみよう		
立体化にむいているのは？	どんな材料でつくろうか？	アイデアをスケッチしてまとめてみよう
4～6. 立体絵文字をつくろう		
材料を工夫して表現したい	アイデアを生かし、楽しい作品をつくりたい	自立するかな？ 効果的な材料の使い方、道具の使い方を考えよう。
7. 効果的な背景を考えよう		
どんな背景が合うかな？	自分の考えたイメージがうまく伝わるかな？	写真を背景に、組み合わせを考えよう。
8. まとめをしよう		
〇〇くんの作品がおもしろい	こんなところを工夫したよ	ワークシートを使って、自己評価しよう。

6. 本時の目標

- 自分のつくった絵文字や他の人の作品のよさを味わい、より効果的に見せられるように背景を考えることができる。 (鑑賞の能力)
- 飾る場所や展示方法を考え、背景との組み合わせを工夫する。 (発想・構想の能力)

7. 本時の展開

主な学習活動	教師のかかわり
<p>漢字の意味が伝わるようにたくさんの漢字を元に絵文字を考え、その中から立体的に表現するためのアイデアを選び、材料や表現方法を工夫し、立体絵文字作品を完成させた。</p>	
<p>自分の作品は、ここがいい。</p> <p>他のひとは、どんな工夫をしたのかな？</p>	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの作品のよさを確認してみる。 カメラ、プロジェクターを準備し、作品を大きくスクリーンに映して見せる。 背景の色（色画用紙など）を変えて提示させる。
<p>みんなのつくった作品を、絵文字としてもっと効果的に見せる工夫をしてみよう。</p>	
<p>背景の色を変えるとずいぶんイメージが変わるね…</p> <p>自分の作品はどんな色が合うだろうか？</p>	<p>鑑 背景によって、作品のイメージが変わることを感じ取ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 背景に写真などを使い、提示させる。
<p>色を考えるだけではなく、より効果的な背景を考えてみよう。</p>	
<p>色だけの時とまた違った感じになるね</p> <p>自分の作品にはどんな背景がいいだろうか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> 写真を取り替えて、イメージが変わっていく様子を提示する。 背景の色画用紙や写真を、教室内に準備しておく。
<p>自分の作品にふさわしい背景を考えよう。</p>	<p>発 自分の作品にふさわしいと思われる背景を考えることができる。</p>
<p>色だけでいい？ 写真だったら、どれがいい？</p> <p>準備された背景の中からふさわしいものを選び出す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> スクリーンに提示して鑑賞する。 カメラなどに記録を残しておく。
<p>選んだ背景と組み合わせて見てみよう</p>	<p>鑑 それぞれの作品のよさを感じ取り、味わうことができる。</p>
<p>作品のイメージが広がったね。</p> <p>自分でも背景になりそうな風景などを探してみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 次回、今日の鑑賞やこれまでの活動のまとめを行う。
<p>伝えたいことが、よりはっきりしてきたね。校内に作品を展示したら、装飾としてもきっと素敵だね。</p>	

『心地よさを大切にしたい造形遊び』～どろんこパーク～

提言者 三浦 麻紀



1. 扉との関連

本題材は、土という素材に全身を使って活動にたっぷり浸り、その楽しさを味わう造形遊びである。

土とかかわり、心地よさという感覚や表したいもの、してみたい行為を共有したり交流し

たりすることで、子供同士のコミュニケーションが活発化する。コミュニケーションは他者とのつながりだけでなく、「もっとこうしたい」という自分の思いのつながりを生む要素ともなる。本題材は、活動の場を4,5年生が栽培活動を行う温室と教材園とした。2年生が変容させた場に4,5年生が植物を植える。2年生は植わった植物を見てまた環境を変化させる。活動に新たな目的が生まれることで、子供たちは発想・構想の能力をさらに働かせ、楽しさに浸るだけでなく、他者を意識した活動をするようになる。場所を共有するというつながりだけでなく、心のつながりも生まれ、子供たちは人とかかわっていくことの喜びや楽しさを味わえるはずである。



2. 題材について（教材性）

土のもつ可塑性は、積む、丸める、掘るなどのさまざまな行為を生み出し、一人一人が思い思いの活動に取り組むことができる。滑らかさや冷たさ、柔らかさといった心地よさを感じながら活動に浸ることで、子供たちが満足感を味わうことができると考えた。満足感を得た子供たちは、その思いを表出し、自然発生的な交流が生まれる。本題材を通して、子供が伝えたいという思いを高め、人とのつながりの大切さに気付いたり、伝え合うことでお互いに認め合ったりする姿を期待している。

3. 題材の目標

- ・友達と一緒に全身を使って楽しく活動しようとする。（造形への関心・意欲・態度）
- ・土に触った感じから、やりたいことを思いつく。（発想・構想の能力）
- ・水を加えたり形をつくったりすることで土の感じが変わることを知り、工夫しながら思いついたことを表す。（創造的な技能）
- ・土の感触の心地よさを味わったり、形のおもしろさを感じとったりする。（鑑賞の能力）

4. 大会テーマとの関連

■造形教育を「ひらく」

全身を使って思い切り活動に浸ったり、心地よい感覚を味わったりすることは、子供たちの心を開放的にし、思いや気持ちを素直に表出させる。そのような活動を通して集団の中でお互いのよさを自然に吸収し、高めていくことができると考えた。まず友達とのかかわりを大切にし、のびのびと活動してほしいと考え、本題材を設定した。

■「すくすく」育て

教師も子供と一緒に楽しい空間を共有することが、まず大切なことであると考えた。低学年では、最初は教師に認めてもらいたいという思いが強いが、教師が子供同士の活動や思いをつなげあわせていくことで、活動に広がり生まれる。認めてくれる相手がいることが、子供の自信や思いを高めていくと考えた。

■「つくるの大好き！」な子ども

行為が自分自身の満足につながり、「もっともっと」という思いを引き出していく。次々に形を変化させ、「こんなこともできたよ」と満足感や達成感を味わってほしい。土の感触だけでなく友達との共感からくる心地よさもまた、豊かな心の育成につながることを期待している。

5. 題材の流れ



「手でさわると気持ちがいい！」

温室と教材園の土を使い、思い思いの活動を始める。時間とともに、近くの友達とつなげ、最後には温室全体が一つの大きなパークに。



「5年生とハーブを植えたよ！」

5年生がどろんこパークに植物を植えその成長とともに、また少しずつパークも変化していく。5年生との交流が、活動の価値を高めた。

全身で土のさわり心地を楽しみ、次々に思いや行為が変化していく姿に、造形遊びの大切さをあらためて実感した授業でした。いつでも見に行きたくなる、お気に入りの場所になりそうです。

『半立体の学校祭パネル』

提言者 森長 弘美



1. 扉との関連

本題材は、つながる造形の中の「校内行事やイベントと造形」に関連するものであるが、授業が直接的に行事と連動してはいない。

行事のための授業ではなく、一見すると行事には全く関連がなさそうに思える授業の題材が、時間を経てつながっていく例である。

また、学校という場において、上級学年から下級学年に文化を伝えていくための学校祭造形イベントとして「つながる」造形と捉えたい。



2. 題材について（教材性）

本題材の魅力のひとつは、与えられたテーマをパネルという平面に広がりや奥行きを与え、半立体として表現することである。

中学生は空間把握能力が未完成であるといわれているが、遠近法を学習した3年生では、大人の感覚では思ってもみなかった空間表現が見られることも多い。

また、構図や材料にも工夫をこらし、豊かな発想で表現を高めていこうとする姿勢も育っていくようである。

さらに、出来上がったパネルは、学校祭が終了した後も校内装飾として永く残される。

3. 題材の目標

- ・空間表現の方法を工夫し、半立体の作品を製作しようとする。（関心・意欲・態度）
- ・構図や材料、色彩を工夫して、空間の表現を構想する。（発想・構想の能力）
- ・材料や色彩を工夫して、美しく美しい半立体作品を製作する。（創造的な技能）
- ・先輩たちの作品を見てよいものを継承し、自分たちの作品に活かす。（鑑賞の能力）

4. 大会テーマとの関連

■造形教育を「ひらく」

本題材は学校祭のためのものである以上に、テーマパネル作りを通して学校の文化を高めていくという意義も持っている。よき伝統をつくり、伝えていく心を育てる。

■「すくすく」育て

学級ごとの取組みとなるが、美術科教師は全学級のアドバイザーとして助言していく。優れた学級があれば、学年を越えて他の学級に紹介し、参考にさせる。

■「つくるの大好き！」な子ども

作り始めるとどんどん新しいアイデアが生まれてくるようである。特に、廃物を利用したり、素材を選んだりすることで、発想が豊かになっていく。

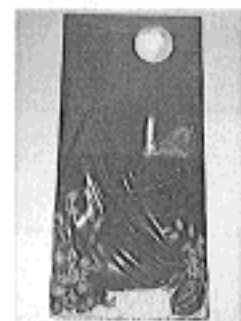
5. 題材の流れ



「半立体のパーツを作る」

〈授業での学習〉

- ・さまざまな遠近法
- ・東洋的な遠近法
- ・透視図法の発明
- ・透視図法の練習



「山水画のように」

〈学校祭の製作〉

- ・奥行き表現の工夫
- ・構図の工夫
俯瞰 仰視
遠近法 透視図法
- ・材料の工夫
廃材 布 市販品
- ・色彩の工夫

ベースとなる遠近法の授業で空間表現のおもしろさを知った生徒たちが、知識と体験に基づいて製作を進めていく姿は、指導した者の目に頼もしく映りました。



会場案内図

会場校紹介

連盟名簿

大会組織図

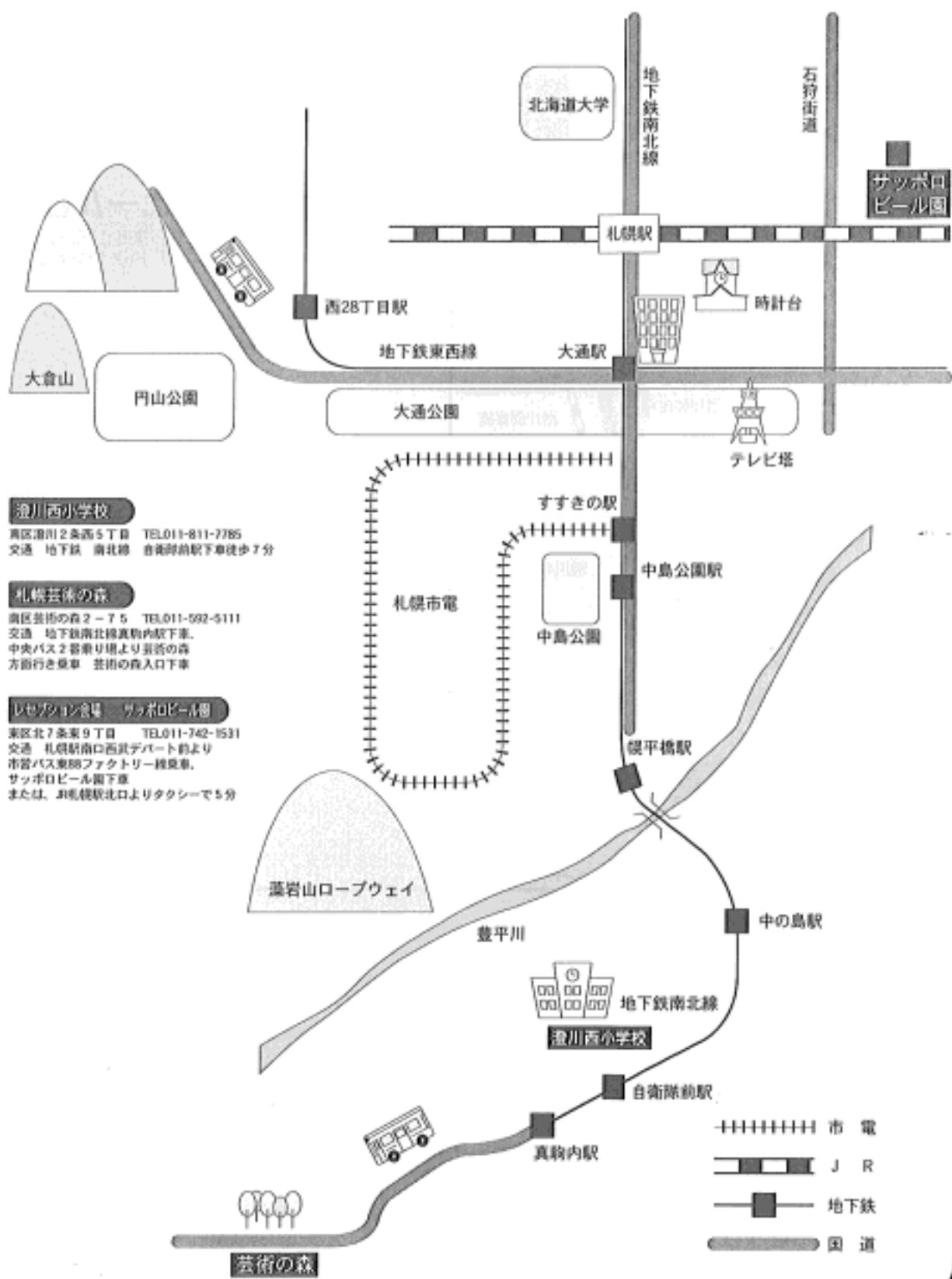
連盟大会のあゆみ



國立
中央
大學
圖書館
藏

会場案内

札幌の交通機関について



澄川西小学校

南区澄川2条西5丁目 TEL.011-811-7785
 交通 地下鉄 南北線 自衛隊前駅下車徒歩7分

札幌芸術の森

南区芸術の森2-75 TEL.011-592-5111
 交通 地下鉄南北線真駒内駅下車、
 中央バス2番乗り場より芸術の森
 方面行き乗車 芸術の森入口下車

レセプション会場 サッポロビール園

東区北7条東9丁目 TEL.011-742-1531
 交通 札幌駅南口西武デパート前より
 市営バス東8ファクトリー線乗車、
 サッポロビール園下車
 または、JR札幌駅北口よりタクシーで5分

- +++++ 市電
- ==== JR
- 地下鉄
- 国道

各会場案内



▲ サッポロビール園

〒065-0007 札幌市東区北7条9丁目2-10
TEL 0120-150-550 FAX 011-722-7326

◀ 澄川西小学校

〒005-0002 札幌市南区澄川2条5丁目7-2
TEL 011-811-7785 FAX 011-811-0326

▼ 札幌芸術の森

札幌市南区芸術の森2-75
TEL 011-592-5111



札幌市立澄川西小学校

かつては精進川の水をひいて水田だったという澄川の地に本校ができて33年の時を経ました。

定山溪鉄道は地下鉄南北線に代わり、札幌オリンピックの頃から多くの人々を運びつづけています。

本校は「輝く瞳 明日をめざす澄西の子ども」を育もうと地域・家庭・学校が手を取り合って、創意と夢あふれる学校づくりに力を注いでいます。

「人と人」「心と心」のつながりを大切にする教育課程は、本大会のテーマ「つながる造形」に重なります。全校造形を通して、子どもたちの「夢と未来」が広がることを願っています。



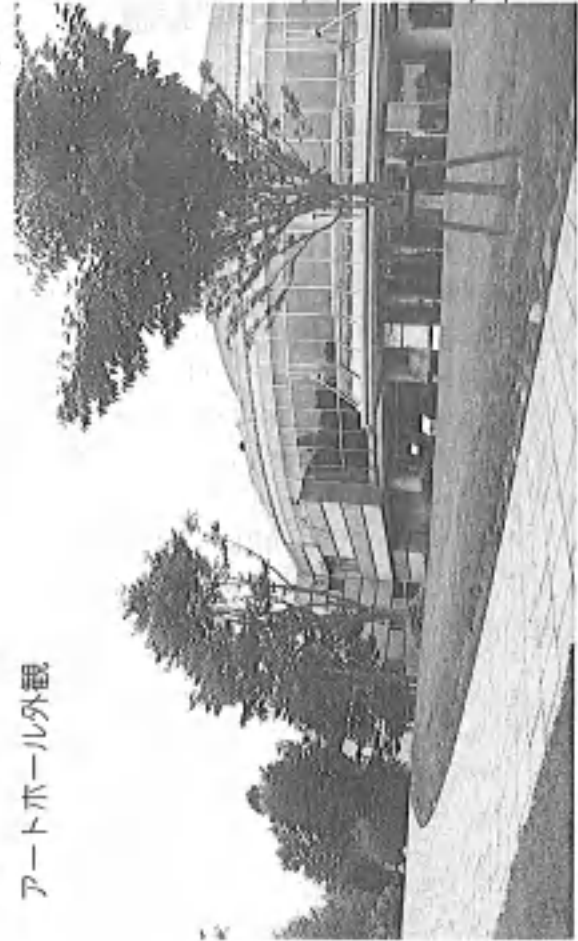
札幌芸術の森

札幌芸術の森は、21世紀に向けた芸術文化都市札幌のシンボルとして昭和61（1986）年7月に一部がオープンして以来、今年で20周年を迎えました。この芸術の森は、恵まれた自然環境の中で芸術家による芸術活動の高まり、市民による芸術活動の参加、さらには、札幌独自の文化へ発信することを目指しています。そして、20世紀に培われた札幌の文化を次世代へ伝える目的の下に3期15年計画で建設が進められ、平成11（1999）年7月に野外美術館のダニ・カラヴァンの彫刻作品《隠された庭への道》の完成をもって、建設・整備が完了いたしました。



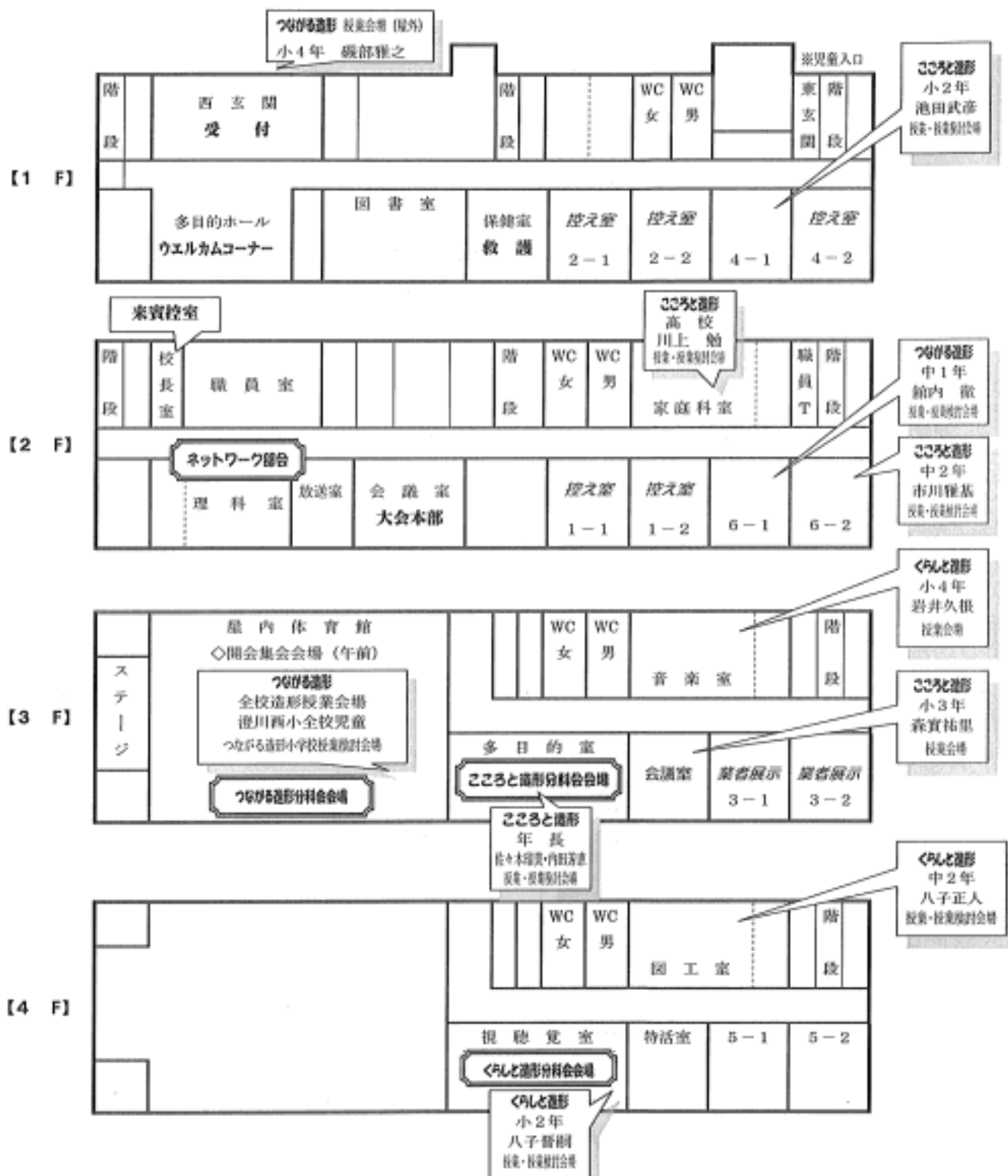
芸術の森は、札幌市の南にある自然環境豊かな丘陵地に位置しています。広さ40haにおよぶその敷地には鑑賞、発表、製作、研修、情報交流の機能を備えた各種芸術施設が点在しており、札幌の複合芸術文化施設として北方の芸術文化を創造・発信していく役割を担っています。

札幌芸術の森 全体ガイド図



アートホール外観

澄川西小学校案内図



ネットワーク部会

1. 趣旨

北海道の造形教育に携わる人や各地区の連携を深め強化していくために

- ①各地区が日常的に連絡や交流できるための名簿を年度毎に作成する。
- ②各地区の研究や実践を交流する。
- ③北海道共通実践題材の開発を行う。
- ④北海道造形教育連盟ホームページの内容を充実させる。
- ⑤5年に1度見直される北海道造形教育連盟の研究主題について、各地区の意見を交流する。

以上の内容を推進するために、春の地区委員総会と夏の全道大会の年2回、ネットワーク会議を開催する。

2. 組織

全道造形教育ネットワークは、全道18サークルのネットワーク担当者と本部ネットワーク担当者とで組織される。



<北海道造形教育連盟ネットワーク部会本部窓口>

小林 知広 (札幌市立前田北小学校)

〒006-0820 札幌市手稲区前田10条18丁目4-1

TEL 011-684-0123 FAX 011-684-3497

HomePage <http://hokuzou.kir.jp>

e-mail hokuzou.post@kagoya.net

3. 経過

【平成5年 旭川大会】

- ・全道造形教育ネットワークの設立が承認される。

【平成6年 釧路大会】

- ・各支部の現状報告や問題点の交流を行う。

【平成7年 千歳大会】

- ・大会会場で各支部の作品交流を行う。

【平成8年 札幌大会】

- ・全18支部の名簿を取りまとめる。地域の特徴を生かした実践交流を行う。

【平成9年 根室大会】

- ・新研究主題の設定や、教育美術展の審査派遣について話し合う。

【平成10年 留萌大会】

- ・全国大会に向けて大会主題やキャッチフレーズについて話し合う。

【平成11年 オホーツク大会】

- ・全国大会の分科会運営について意見交流を行う。

【平成12年 函館大会】

- ・大会での助言や提言の担当者名や内容について各地区の状況を確認する。

【平成13年 全国大会・北海道大会】

- ・全国大会の分科会で各地区による助言や提言を運営する。

【平成14年 帯広・十勝大会】

- ・今後のネットワーク会議のあり方について意見交流を行う。

【平成15年 空知・滝川大会】

- ・「全道の児童・生徒の造形に関わる意欲や技能などの実態調査」の内容や実施についての検討。

【平成16年 旭川大会】

- ・「全道の児童・生徒の造形に関わる意欲や技能などの実態調査」の結果について交流する。

【平成17年 函館大会】

- ・各地区での取り組みの交流。

4. 札幌大会ネットワーク会議の内容

- ①自己紹介
 ②春の地区委員総会でのネットワーク会議の報告
 ③各サークルの意見交流
 テーマ1
 ・各サークルにおける日常の実践交流・課題交流
 テーマ2
 ・各サークルでの取り組み、事業などの交流
 ④ホームページの今後の運営について
 ⑤その他

5. HomePageコンテンツ

造形教育に関する情報を誰もが取り出し、ひとりでも多くの子ども達が、造形活動のよさを感じていけるような環境づくりを目指し、ホームページを運営しています。インターネットでアクセスすると、欲しい情報が蓄積されているようなホームページを最終目標に、今後コンテンツ時の充実を図ってきたいと考えています。

<コンテンツ>

- 18支部紹介
- 北海道教育美術展
- 広報
- リンク
- 札幌大会 大会案内

6. 平成18年度 全道ネットワーク担当者名簿

	サークル名	担当者名	勤務校	TEL	FAX
道央ブロック	札幌市造形教育連盟	小林 知広	札幌市立前田北小学校	011-684-0123	011-684-3494
	石狩造形教育連盟	山崎 正明	北広島市大曲中学校	011-376-2354	011-377-3419
	空知美術教育研究会	佐藤 祈	深川市多度志中学校	0164-27-2006	0164-27-2036
	後志教育研究会函工美術部会	竹生 元	余市町大川小学校	0135-22-3887	0135-22-7149
道北ブロック	上川造形教育連盟	中島 圭介	旭川市東光中学校	0166-32-1295	0166-32-1296
	旭川教育研究会函工部会	中村 靖	旭川市六合中学校	0166-51-5388	0166-51-5389
	留萌地方美術教育研究会	斉藤 友昭	留萌市東光小学校	0164-42-1820	0164-42-1821
道南ブロック	渡島美術教育研究会	水口 司	大野町大野中学校	0138-77-8137	0138-77-7974
	函館市美術教育研究会	柿崎 雄二	函館市昭和小学校	0138-41-4964	0138-41-4946
	檜山造形教育研究会				
	胆振造形教育研究会	藤沢紀世安	苫小牧市豊川小学校	0144-73-8024	0144-73-8025
	室蘭市造形教育研究会				
	苫小牧市造形研究会	宮下 肇彰	苫小牧市拓勇小学校	0144-57-2800	0144-57-2830
道東ブロック	帯広市教育研究会函工美術部会	澤田 佳子	帯広市第四中学校	0155-24-3511	0155-24-3512
	釧路造形教育研究会	中嶋 健朗			
	オホーツク造形教育連盟	添田 好美	訓子府町訓子府小学校	0157-47-2011	0157-47-2036
	根室造形教育連盟	小野寺宏二	風連町上風連中学校	0153-75-7302	0153-75-7340

平成18年度 北海道造形教育連盟簿

役名	氏名	勤務校	役名	氏名	勤務校
委員長	今 裕	札幌市立澄川西小長	次 長	塚 本	札幌市立栄北小
副委員長	川 勝	函館市立千代ヶ岱小長	"	石 垣	" 西小
"	宝 輪	釧路市立芦野小長	"	寺 田	" 柏中
"	宝 勝	江別市立角山中長	"	安 八	" 発寒中
"	坂 野	旭川市立北門中長	"	森 藤	" 手稲中
監 査	坂 嶋	札幌市立東米里小中長	"	佐々木	" 稲穂中
"	高 橋	釧路北陽高	"	岩 々	" 札幌中
事務局長	植 木	札幌市立常盤小長	"	三 井	" 二条小
次 長	菅 原	札幌市立前田北小長	"	岩 浦	" 三角山小
"	板 本	" 厚別通小長	"	濱 崎	" 南月寒小
"	石 川	東海大附属第四高	"	中 口	" 澄川西小
"	池 谷	札幌市立札幌中長	"	岡 田	" 澄川南小
"	篠 原	" いなづみ幼長	"	祖 父	" 月寒小
		" 琴似小頭	"	江 知	" 中の島小
			部内顧問	江 信	" 平和小頭
会計部長	益 村	札幌市立菊水小長	"	小 泉	" 福井野中頭
副部長	谷 山	" 屯田西小頭	"	田 柳	" 手稲東小
部内顧問	元 茂	" 澄川南小	"	田 口	" みどり小頭
	櫻 田	" 山の手南小頭			
庶務部長	箭 内	" 真駒内曙小	研究部長	川 島	札幌市立観南小
副部長	高 向	札幌女子中・高等部	副部長	森 浅	" 白楊幼
"	今 谷	札幌市立八軒北小	"	湯 浅	" 伏見小
"	椿 野	" 真栄中	"	堀 口	教育大学附属小
次 長	藤 森	" 前田北小	"	森 實	" 三角山小
"	氏 沼	" 日新小	"	阿 部	" 八軒中
"	本 家	" 常盤小	"	高 橋	" 福井野中
部内顧問	廣 本	" 西野小	"	大 高	" 平岡緑中
"	古 廣	" 本郷小長	次 長	澤 高	札幌清田高
"	安 古	" 伏古小長	"	細 川	私立丘珠幼稚園副園長
"	後 藤	" 大谷地東小頭	"	加 藤	札幌市立屯田西小
		" 月寒中頭	"	山 林	" 前田北小
広報部長	東 尚	" 大谷地東小	"	小 櫻	" 上野東小
副部長	土 肥	" 清田南小	"	山 野	" 光陽小
"	小 林	" 厚別東小	"	櫻 下	" 東山小
次 長	中 山	" 手稲西中	"	藪 野	" 幌西小
"	山 室	" 山鼻南小	"	狩 野	" 南郷小
"	富 波	" 白楊小	"	伊 藤	" 八条中
"	松 本	" 発寒小	"	安 内	" 平岸中
"	平 井	" 厚別北中	"	館 向	" 藤野中
部内顧問	伊 藤	" 苗穂小	"	石 井	" あいの里東中
"	馬 富	" 新陽小長	"	水 川	" 宮の丘中
"	土 田	" 丘珠中長	"	市 野	北海道教育大学附属中
"	加 藤	" 二条小頭	"	川 川	札幌市立屯田北中
"	三 井	" 栄町小頭	"	瀧 川	" 八軒中
"	中 居	" 小野幌小頭	"	松 葉	" 栄中
"	小 泉	" 菊水小	"	本 呂	札幌開成高
		" 東光小	"	松 井	札幌平岸高
事業部長	福 島	札幌市立澄川西小	"	板 東	札幌南陵高
副部長	白 井	" 二十四軒小	"	川 上	北広島高
"	池 田	" 月寒小	"	芝 木	札幌手稲高
"	毛 利	" 澄川南小	部内顧問	谷 川	札幌白陵高
"	大 高	" 平岡緑中	"	近 野	私立なかのしま幼稚園長
"	小 野	" 伏古北小	"	阿 藤	私立平和幼稚園長
"	八 田	" 中央小	"	小 部	道教育大学附属札幌中副長
"	二 山	" 平岡中央小	"	伊 野	豊明高等養護長
"	富 西	" 藤野小	"	坂 野	" 北陽小頭
"	山 西	" 北野平小	"	合 田	" 澄川中頭
"	大 山	" 山鼻南小	"	田 中	" 南月寒小頭
"	新 見	" 日新小	"		" 南の沢小
		" 幌西小			" 北辰中
		" 平岸高台小			" 札幌北中

地区委員名簿

地区	サークル名	氏名	勤務校	電話番号
札幌	札幌市造形教育連盟	湯 浅 大 吾	札幌市立伏見小	011-551-2771
道央	石狩造形教育連盟	伝 住 修 一	江別市立いずみ野小頭	011-381-5090
	空知美術教育研究会	中 澤 孝 仁	岩見沢市立第二小	0126-26-1504
	後志教育研究会図工美術部会	竹 生 元	余市町立大川小	0135-22-3887
道北	上川造形教育研究会	川 合 薫	富良野市立樹海東小長	0167-28-2004
	旭川市教育研究会図工美術部会	森 清 行	旭川市立光陽中	0166-31-9177
	留萌地方美術教育研究会	齊 藤 友 昭	増毛町立増毛小頭	0164-53-2174
道南	渡島美術教育研究会	後 藤 征 秀	知内町立知内中	01392-5-5024
	函館市美術教育研究会	瀧 本 伸 幸	函館市立日吉が丘小	0138-51-7072
	檜山管内造形教育研究会	田 中 俊 一	江差町立江差中長	01395-2-0141
	胆振造形教育研究会	玉 田 博	鶴川町立鶴川中央小	01454-2-2023
	苫小牧市教育研究会造形研究部会	宮 下 肇 彰	苫小牧市立拓勇小	0144-57-2800
	室蘭造形教育研究会	北 村 哲 朗	室蘭市立武揚小	0143-22-1788
道東	十勝造形サークル	小 泉 佳 一	幕別町立札内中	0155-56-2015
	帯広市教育研究会図工美術部会	野 原 圭 介	帯広市立大正小	0155-64-5020
	釧路造形教育研究会	高 橋 潤	釧路北陽高	0154-41-4401
	オホーツク造形教育連盟	光 岡 光 彦	網走市立中央小長	0152-44-7368
	根室造形教育連盟	大 井 誠一郎	別海町立上西春別中長	0153-77-2374

北海道造形教育連盟顧問

氏名	地区	氏名	地区	氏名	地区	氏名	地区
秋山修世	函館市	加藤彬	函館市	角力山旭	札幌市	藤井正治	札幌市
阿部賢一	北見市	金井秀男	札幌市	諏訪英雄	登別市	松島輝男	札幌市
石井久	函館市	金谷彊	函館市	関建治	江庭市	三浦敏勝	函館市
石崎義政	室蘭市	上條雄也	旭川市	高橋鍬治	留萌市	三谷哲司	札幌市
石塚潔	登別市	川島信也	旭川市	滝村虎雄	函館市	宮川誠一	札幌市
伊藤恵	札幌市	窪田恵子	札幌市	多田紘一	札幌市	宗廣義彦	南幌町
伊藤英明	函館市	近藤貢	函館市	田邊康夫	滝川市	村瀬千櫻	札幌市
伊藤善彬	札幌市	齊藤隆博	帯広市	種市誠次郎	札幌市	森川昭夫	札幌市
稲船正男	釧路市	佐藤潔	釧路市	寺本吉明	芽室町	柳原寿夫	旭川市
内田暢一	浦臼町	佐藤吉五郎	札幌市	出村保	留萌市	山宮喬也	北見市
遠藤満男	苫小牧市	佐藤正幸	美唄市	出村英和	音更町	吉田俊雄	札幌市
江川佳徳	札幌市	佐藤靖	札幌市	土井勝則	江別市	吉田英夫	北広島市
繪面和子	函館市	重山恵	旭川市	富田泰	札幌市	米谷哲夫	札幌市
及川輝夫	旭川市	庄栄一	札幌市	鍋谷尊之	岩見沢市	和田弘	北広島市
奥野郁男	札幌市	芝木秀昭	札幌市	早弓弘之	滝川市	若竹隆邦	江差町
織田達史	増毛町	白井園毅	江別市	船着昭弘	札幌市	山口長伸	別海町
鹿島健	札幌市	須貝徹	遠軽市				

北海道造形教育連盟事務局

006-0820 札幌市手稲区前田10条18丁目4-1

札幌市立前田北小学校 (TEL 011-684-0123 FAX 011-684-3497)

事務局長 菅原 清貴

<http://ha5.seikyoku.ne.jp/home/hokuzou/>

Eメール hokuzou@ma5.seikyoku.ne.jp

平成18年度 札幌市造形教育連盟 会員名簿

氏名	勤務先	役職	電話番号
行政機関			
勝田 真塩	札幌市教育委員会	指導主事	211-3861
野切 卓	札幌市教育センター	指導主事	671-3410
幼稚園			
池田 悦子	いなづみ 幼稚園	園長	683-3185
上田 克美	さくすいもとまち 幼稚園		873-2285
柏木 順	たいへいみなみ 幼稚園		771-4199
川口いづみ	手稲中央 幼稚園		681-2298
森 美由紀	白 楊 幼稚園		736-0764
細川 依子	丘 珠 幼稚園	副園長	783-2233
長谷川 右	平 和 幼稚園	園長	662-5251
芝木 捷子	なかのしま 幼稚園	園長	821-7414
小学校			
浅井 律子	北野台 小学校		882-5281
東 尚典	大谷地東 小学校		894-7211
東 政美	澄川南 小学校		584-2115
阿部 俊樹	手稲東 小学校		681-3038
阿部 宏行	北 陽 小学校	教頭	716-1657
大門 沙織	幌 西 小学校		561-2201
池田 武彦	月 寒 小学校		851-9348
石垣あけみ	西 小学校		662-5227
石川 絢子	南 白 石 小学校		863-0701
坂木 武	厚 別 通 小学校	校長	892-7555
坂田 恭侑	西 岡 南 小学校		582-6350
伊藤 聡美	苗 穂 小学校		721-5105
伊藤 寿朗	手稲宮丘 小学校		661-7393
伊藤 正敏	西 白 石 小学校		864-2302
磯部 雅之	常 盤 小学校		591-8880
稲實 順	北 小学校	教頭	731-8381
今谷 孝	八 軒 北 小学校		642-8603
岩井 久根	二 条 小学校		261-6596
岩崎 重明	南 月 寒 小学校		853-9314
岩田 守代	元 町 小学校		781-8111
植木 則子	常 盤 小学校	校長	591-8880
氏家 珠実	日 新 小学校		631-6361
梅野 隆	もみじ台南 小学校	教頭	897-9301
大村 恵一	鎌 舞 小学校		596-2852
小野 正二	伏 古 北 小学校		784-3322
小野 博史	東 山 小学校		831-6530
葛西 実	北 野 平 小学校		881-8191
加藤 雅子	屯 田 西 小学校		773-6105
加藤 正幸	栄 町 小学校	教頭	752-4130
川島 正夫	幌 南 小学校		521-0214
菅 淳子	東 光 小学校		782-8097
久保ふじ子	東 苗 穂 小学校		781-9191
熊谷 悦代	琴 似 中央 小学校		631-6306
隈本 一哉	屯 田 南 小学校		772-0671
毛馬内園夫	新 陽 小学校	校長	756-1538
小泉 誠	東 光 小学校		782-8097
古谷 壽朗	伏 古 小学校	校長	783-5656
小林 知広	前 田 北 小学校		684-0123

氏名	勤務先	役職	電話番号
小林万咲彦	定 山 溪 小学校		598-2604
小林 充裕	厚 別 東 小学校		898-4650
小柳 雄嗣	手 稲 東 小学校		661-1516
今 裕子	澄 川 西 小学校	校長	811-7785
坂口 健	伏 見 小学校		551-2771
櫻田 悟	光 陽 小学校		761-2521
櫻田 豊	山 の 手 小学校	教頭	621-0439
澤波 隆信	手稲宮丘 小学校		661-7393
篠原 寛	琴 似 小学校	教頭	611-4391
白井 真澄	二十四軒 小学校		642-2855
菅原 清貴	前 田 北 小学校	校長	684-0123
高梨 美幸	平 岡 公 園 小学校		885-9414
田口 和男	み どり 小学校		812-8164
田辺 詩恵	手 稲 東 小学校		661-1516
谷山 圭子	屯 田 西 小学校	教頭	773-6105
塚本由岐子	北 陽 小学校		721-5245
土井 善範	二 条 小学校	教頭	261-6596
富樫 信博	藤 野 小学校		591-4110
上肥 宏充	清 田 南 小学校		881-1975
富所 玲	山 鼻 南 小学校		532-8340
冨波 修	白 楊 小学校		726-4158
中居 正光	菊 水 小学校		872-3084
奈良岡 学	元 町 小学校		781-8111
新見重矢子	平 岸 高 台 小学校		813-7751
沼田 玲子	常 盤 小学校		591-8880
能登谷治恵	幌 西 小学校		561-2201
八田 博之	中 央 小学校		261-6568
原田 香利	新 川 小学校		762-1737
平松美恵子	南 月 寒 小学校		853-9314
廣瀬 恵子	本 郷 小学校	校長	861-4128
福島由紀子	澄 川 西 小学校		811-7785
ニッ山おる	平 岡 中央 小学校		884-6541
堀口 基一	附 属 小学校		778-0471
益村 豊	菊 水 小学校	校長	872-3084
松本 和彦	発 寒 小学校		661-2521
水吐子穂子	和 光 小学校		736-7351
三井 哲	小 野 幌 小学校	教頭	898-0552
宮田 珠世	円 山 小学校		631-3437
毛利 聡	澄 川 南 小学校		584-2115
八子 晋嗣	山 鼻 南 小学校		532-8340
三浦 麻紀	三 角 山 小学校		643-1133
元茂 章子	澄 川 南 小学校		584-2115
森實 祐里	三 角 山 小学校		643-1133
安木 尚博	大 谷 地 東 小学校	教頭	894-7211
箭内 浩之	真 駒 内 曙 小学校		581-5291
矢野 宜利	伏 見 小学校		551-2771
藪下 栄一	幌 西 小学校		561-2201
山 薫	上 野 幌 東 小学校		893-5055
山室ゆかり	山 鼻 南 小学校		532-8340
湯浅 大吾	伏 見 小学校		551-2771

氏名	勤務先	役職	電話番号
中学校			
阿部 時彦	八 軒 中学校		631-3517
安藤 桃子	手 稲 中学校		681-2557
石川 早苗	宮 の 丘 中学校		662-6611
石谷 正美	札 苗 中学校	校 長	783-1027
伊藤 尚	八 条 中学校		831-6145
大高 雅子	平 岡 緑 中学校		888-3110
岡澤 邦彦	前 田 中学校		682-9511
小野 泰裕	南 が 丘 中学校	教 頭	821-9203
蒲谷 貴史	澄 川 中学校		821-9203
北川 珠実	東 月 寒 中学校		853-1520
小泉 信嗣	福 井 野 中学校	教 頭	663-1155
合田 典史	北 辰 中学校		716-6151
小林 秀史	東 白 石 中学校		864-0984
今 千香	前 田 北 中学校		694-2320
佐伯 麗子	太 平 中学校		772-7961
佐々木 曉子	札 幌 中学校		781-2221
高橋久美子	福 井 野 中学校		663-1155
高向 修子	藤 女 子 中学校		707-5001
田中 潤	札 苗 北 中学校		791-1190
館内 徹	藤 野 中学校		592-1921
塚野 昭臣	附 属 中学校	副校長	778-0481
築地 政樹	西 陵 中学校		662-6611
椿野 衣江	真 栄 中学校		884-6561
寺嶋 文恵	東 米 里 中学校	校 長	871-5627
寺田 実	柏 中学校		521-2341
富田 賢司	丘 珠 中学校	教 頭	782-6511
豊田 ゆき	あいの里東 中学校		778-3025
中山 龍男	手 稲 西 中学校		681-3392
原田 恵子	中学校		
平井 歩	厚 別 北 中学校		895-7461
瀬川 欣子	八 軒 中学校		631-3517
水内奈生子	啓 明 中学校		561-4168
水野 一英	附 属 中学校		778-0481
向 敏光	羊 丘 中学校		851-9352
向井 正樹	あいの里東 中学校		778-3025
森岡 香子	稲 穂 中学校		684-4601
六本木祐司	栄 南 中学校		781-1260
八子 正人	発 寒 中学校		661-0412
安田 仁昭	平 岸 中学校		895-7461
棚田 裕美	当別町立弁華別 中学校		0132-3-239
斎藤 啓代	小樽市立向陽 中学校		0131-23-8158
高等学校			
石川 雅昭	東海大学附属第四 高等学校		571-5175
川上 勉	札 幌 白 陵 高等学校		871-5500
近藤 暢男	豊 明 高 等 養護学校	校 長	774-2222
斉藤 周	札 幌 開 成 高等学校		781-8171
鉢呂 彰敏	札 幌 平 岸 高等学校		812-2010
坂東 宏哉	札 幌 手 稲 高等学校		683-3311
本田 勝哉	札 幌 丘 珠 高等学校		782-2911
本庄 隆志	札 幌 南 陵 高等学校		591-2101
松井 茂樹	北 広 島 高等学校		372-2282

氏名		電話番号
OB		
赤石 芳郎	O B	
伊藤 恵	O B	
伊藤 武司	O B	
伊藤 暢紀	O B	
伊藤 善彬	O B	
池嶋 憲彦	O B	
江川 佳徳	O B	
奥野 郁男	O B	
小尾 喬	O B	
鹿嶋 建	O B	
金井 秀男	O B	
窪田 恵子	O B	
香西富士夫	O B	
斎藤 征夫	O B	
佐藤 靖	O B	
芝木 秀昭	O B	
島 界二	O B	
高杉 正和	O B	
武市 尚正	O B	
多田 紘一	O B	
谷 勲	O B	
角力山 旭	O B	
富田 泰	O B	
中尾 孝典	O B	
永井 恭子	O B	
長野 祐平	O B	
西 寛	O B	
藤井 正治	O B	
船着 昭弘	O B	
三輪 望	O B	
宗像 宏子	O B	
村谷 利一	O B	
森川 昭夫	O B	
山田 宏	O B	
山本 景子	O B	
結城 健介	O B	
吉田 俊雄	O B	

事務局役員名簿

役職名	氏名	勤務先
委 員 長	菅原 清貴	前 田 北 小 校 長
副 委 員 長	毛馬内國夫	新 陽 小 校 長
副 委 員 長	塚野 昭臣	附 属 札 幌 中 副校長
副 委 員 長	近藤 暢男	豊明高等養護 校 長
会 計 監 査	益村 豊	菊 水 小 校 長
事 務 局 長	湯浅 大吾	伏 見 小
会 計 部 長	高向 修子	藤女子中・高
授業研究部長	堀口 基一	附 属 札 幌 小
研修活動部長	向井 正樹	あいの里東中
広報活動部長	櫻田 悟	光 陽 小
庶務活動部長	石川 早苗	宮 の 丘 中
幼稚園プロジェクト	池田 悦子	いなづま幼稚園 園 長
高校プロジェクト	鉢呂 彰敏	札 幌 平 岸 高

平成18年度地区サークル役員名簿

北海道造形教育連盟

札幌市造形教育連盟 (185)

委員長	菅原 清貴	札幌前田北小長
副委員長	毛馬内國夫	札幌新陽小長
	塚野 昭臣	教育大附属札幌中副長
	近藤 暢男	札幌豊明高等養護長
会計監査	益村 豊	札幌菊水小長
事務局長	湯浅 大吾	札幌伏見小
会計部長	高向 修子	藤女子中・高
授業研究部長	堀口 基一	教育大附属札幌小
研修活動部長	向井 正樹	札幌あいの里東中
広報活動部長	櫻田 悟	札幌光陽小
庶務活動部長	石川 早苗	札幌宮の丘中
幼稚園プロジェクト	池田 悦子	いなづみ幼長
高校プロジェクト	鉢呂 彰敏	平岸高

事務局 札幌市立伏見小学校…湯浅 大吾
064-0918札幌市中央区南18条西15丁目1-1011-551-2771

上川造形教育研究会 (42)

会長	川合 薫	富良野樹海東小長
副会長	加藤 隆	比布蘭留小長
	菅原 良和	士別温根別小頭
	中島 圭介	旭川東光中
監査	引地 俊夫	上富良野東中小長
	原 完	士別多寄中長
事務局長	山口 貴大	当麻当麻小

事務局 当麻町立当麻小学校…山口 貴大
078-1313当麻町3条東3丁目13-1 0166-84-2020

石狩造形教育連盟 (150)

委員長	桑田 正博	江別角山小中長
副委員長	藤田 充泰	石狩花川北中長
	安藤 信行	江別第三小長
事務局長	伝住 修一	江別いずみ野小頭
研究部長	山崎 正明	千歳北斗中
組織部長	寶島 裕二	北広島西部小
事業部長	西村 司	北広島緑陽中
広報部長	井上 哲義	石狩花川南中
監査	住友 俊郎	北広島東部小長

事務局 江別市立いずみ野小学校…伝住 修一
067-0033江別市対雁113-1 011-381-5090

旭川市教育研究会図工美術部会 (63)

部長	川原 潤	旭川永山南中
副部長	岡田 裕昭	旭川永山西小
	鈴木 敏春	旭川永山南中
事務局長	森 洋	旭川北星中
研究部長	成田 慎司	旭川緑が丘中
事業部長	大山みのり	旭川陵雲小
広報部長	中村 靖	旭川六合中
顧問	岡 坂野 潤治	旭川北門中長

事務局 旭川市立光陽中学校…森 清行
078-8233旭川市豊岡3条1丁目0166-31-9177

空知美術教育研究会 (79)

会長	枝広 健二	岩見沢光陵中長
副会長	佐藤 祈	深川多度志中頭
	白井万寿子	三笠美園小頭
事務局長	中澤 孝仁	岩見沢第二小
事務局次長	橋本 幸枝	岩見沢明成中
総務部長	岩田 智弘	美唄東中
研究部長	館山 唯郎	赤平中央中
事業部長	鎌田 俊博	滝川江陵中
広報部長	幸田 尚子	南幌みどり野小
監査	中澤有未代	岩見沢緑中
	渡辺 貞之	空美OB
	伊藤 晃	岩見沢第二小
	桔梗智恵美	深川深川小
顧問	内田 暢一	空美OB
	佐藤 正幸	空美OB

事務局 岩見沢市立第二小学校…中澤 孝仁
069-0364岩見沢市上幌向南3条7丁目0126-26-1504

留萌地方美術教育研究会 (26)

会長	室谷 雄一	幌延間寒別小中長
副会長	池田 優子	小平小平小
	斎藤 友昭	増毛増毛小頭
監査役	滝本 都子	留萌東光小
	原田 菊枝	天塩啓徳中
事務局長	野島 操	留萌三泊小頭
事務局次長	小西 共美	留萌沖美小
会計	豊崎 東洋	苫前古丹別小
研究部長	松岡 宏悦	小平小平小
事業部長	工藤 臣	天塩天塩中

事務局 留萌市立三泊小学校…野島 操
077-0001留萌市三泊町100 0164-42-0778

後志教育研究会図工美術部会 (5)

造形教育窓口	竹生 元	余市大川小
--------	------	-------

連絡先 余市町立大川小学校…竹生 元
046-0004余市町大川町10丁目-1 0135-22-3887

渡島美術教育研究会 (23)

会長	藤澤 健二	北斗萩野小長
副会長	黒田 雅世	北斗島川小長
	竹内 良容	八雲大関小長
	細川敬太郎	上磯石別小長
	多胡 豊	八雲泊川小長
監査	村岡 壽英	木古内鶴岡小頭
研究部長	佐々木善恵	北斗浜分小
研究副部長	横井 真	木古内木古内中
事業部長	岡島 俊	鹿部鹿部中
事業副部長	佐藤さなえ	北斗浜分中
	亀山 厚子	七飯大中山中
庶務部長	古川 典之	木古内木古内小
会計	川村 麻美	北斗大野小
幹事長	後藤 征秀	知内知内中
副幹事長	水口 司	北斗大野中

事務局 知内町立知内中学校…後藤 征秀
049-1103知内町重内22-1 01392-5-5024

函館市美術教育研究会 (54)
 会 長 藤川 潔 函館千代ヶ丘小長
 副 会 長 野呂 憲一 函館西小長
 武田 誠 函館北昭和小学長
 辻口 善廣 函館戸井西小長
 土谷 敬 教育大附属函館中副長
 中村 吉秀 函館桔梗中頭
 東堂 亮之 函館神山小頭
 幹 事 長(小) 瀧本 伸幸 函館日吉が丘小
 幹 事 長(中) 横岸 澤英二 函館本通中
 研究部長(小) 柿崎 雄二 函館昭和小
 (中) 木村 伸仁 函館旭岡中
 事業部長(小) 山田 光 函館旭岡小
 (中) 仲井 靖典 函館湯川中
 庶務部長(小) 西館 純 函館昭和小
 (中) 林 弘実 函館凌雲中
 経理部長(小) 山形 弘枝 函館金堀小
 (中) 薄井 恵子 函館西中
 総 務 鈴木 秀明 函館神山小
 事務局 函館市立日吉が丘小学校…瀧本 伸幸
 041-0841函館市日吉町2丁目34-10138-51-7072

檜山造形教育研究会 (16)
 会 長 田中 俊一 江差江差中長
 副 会 長 大島 道夫 厚沢部館小長
 阿部世津子 上ノ国小砂子小長
 事務局 長 谷口 光伸 上ノ国滝沢小頭
 事務局 次長 藤谷 貴代 乙部乙部小
 研究 部 長 高田 哲嗣 今金美利河小長
 事業 部 長 太田 栄二 上ノ国上ノ国中長
 幹 事 鈴木 修一 奥尻青苗小頭
 晴山 泰文 厚沢部鶴小頭
 山谷 佳公 江差江差小
 事務局 上ノ国町立滝沢小学校…谷口 光伸
 049-0606上ノ国町字木ノ子192 0139-58-5036

胆振造形教育研究会 (20)
 会 長 藤澤紀世安 苫小牧豊川小
 副 会 長 佐竹 秀行 白老竹浦小
 佐藤 輝彦 鶴川宮戸小
 事務局 長 玉田 博 鶴川鶴川中央小
 事務局 鶴川町立鶴川中央小学校…玉田 博
 054-0022 鶴川町花園1丁目14 01454-2-2023

苫小牧市教育研究会造形部会 (82)
 部 会 長 藤澤紀世安 苫小牧豊川小
 副 部 会 長 大下 教子 苫小牧緑陵中
 宮下 肇彰 苫小牧拓勇小
 理 事 中畑 一彦 苫小牧啓北中
 小助川智美 苫小牧緑小
 幹 事 長 柴田 由佳 苫小牧拓勇小
 事務局 苫小牧市立拓勇小学校…柴田 由佳
 059-1364苫小牧市字沼ノ端202-2 0144-57-2800

室蘭造形教育研究会 (8)
 地区 委員 北村 哲朗 室蘭武揚小
 連絡先 室蘭市立武揚小学校…北村 哲朗
 051-0014 室蘭市栄町2丁目3-3 0143-22-1788

十勝造形サークル (20)
 委 員 長 石割 章浩 浦幌上浦幌中
 事務局 長 小泉 桂一 幕別札内中
 事務局 幕別町立札内中学校…小泉 桂一
 089-0553 幕別町札内文京町290155-56-2015

帯広市教育研究会図工美術部会 (87)
 部 会 長 根岸 邦昌 帯広第六中
 副 部 会 長 山口 雅子 帯広東小
 事務局 長 野原 圭介 帯広大正小
 事務局 次長 上山 映子 帯広緑園中
 事務局 員 梅津 美香 帯広清川中
 梅津 和行 帯広稲田小
 工藤 亜紀 帯広若葉小
 石田 千里 帯広森の里小
 平澤 飛鳥 帯広第二中
 事務局 帯広市立大正小学校…野原 圭介
 089-1242帯広市大正町550-3 0155-64-5020

釧路造形教育研究会 (46)
 会 長 宝輪 勝巳 釧路芦野小長
 監 査 中島 郁子 釧路美原小長
 副 会 長 奥田 泰朗 釧路青陵中頭
 森川 浩 釧路桜が丘小頭
 小野三枝子 釧路山花小中頭
 森 富輝 釧路大業毛中頭
 事務局 長 高橋 潤 釧路北陽高
 事務局 次長 中谷内 進 釧路青陵中
 葛西 新吾 釧路桜が丘中
 中島 健朗 釧路鳥取小中
 研究 部 長 花輪 大輔 教育大附属釧路中
 事務局 北海道釧路北陽高等学校…高橋 潤
 085-0814釧路市緑ヶ岡1丁目11-8 0154-41-4401

オホーツク造形教育連盟 (50)
 委 員 長 光岡 光彦 網走中央小長
 副 委 員 長 神田 国昭 小清水小清水小長小
 鈴木 峻二 北見日吉小長
 古田 寛 美幌福豊小長
 石橋 一郎 斜里斜里小頭
 里見 貴史 北見三輪小
 事務局 長 平岡 良一 清里江南小
 事務局 次長 原田 信子 北見相内小
 理 事 岡本 久美 紋別清野中
 大野 忠宏 津別津別中
 監 査 青木 修 北見北中長
 中村 信之 雄武豊丘小長
 研修 部 長 添田 好美 訓子府訓子府小
 組 織 部 長 江藤あけみ 網走第二中
 広 報 部 長 森崎 好子 網走呼人中
 事務局 北見市立三輪小学校…里見 貴史
 090-0836北見市三輪468 0157-36-2241

根室造形教育連盟 (21)
 委 員 長 大井誠一郎 別海西春別中長
 副 委 員 長 煤賀 克文 根室花咲港小長
 事務局 長 小野寺宏二 羅臼羅臼小長
 事務局 次長 小出 秀朋 別海西春別小
 研究 部 長 大溝 雅之 羅臼春松中
 研究 副 部 長 小出 真妃 別海光進小
 会 計 監 査 上原由紀子 標津川北中
 理 事 長谷川恵美子 根室柏陵中
 安井加奈子 別海西春別中
 吉田久美子 中標津中標津東小
 顧 問 山口 長伸 別海町教育長
 清水 克美 中標津画家
 桐沢 享 根室勤実の森美術館長
 細見 浩 中標津町版画家
 鶴谷 尊之 岩見沢画家
 本川 勝敏 根室写真家
 事務局 羅臼町立羅臼小学校…小野寺 宏二
 086-1833羅臼町本町41 0153-87-2006

第56回 全道造形教育研究大会 実行委員会名簿

大会長	
今 裕子 (北海道造形教育連盟委員長/札幌市立澄川西小学校長)	
副大会長	
藤川 潔(函館市立千代台小長)	<札幌市造形教育連盟副委員長>
宝輪 勝己(釧路市立芦野小長)	毛馬内國夫(札幌市立新陽小長)※トーク担当
桑田 正博(江別市立角山中長)	塚野 昭臣(道教大札幌附屬中副校長)
坂野 潤治(旭川市立北門中長)	近藤 暢男(札幌市立豊明高等養護長)
寺嶋 文恵(札幌東米里小中長)	
実行委員長	
菅原 清貴 (北海道造形教育連盟事務局長/札幌市立前田北小学校長)	
副実行委員長	
板木 武	札幌市立厚別通小学校長
石川 雅昭	東海大付属第四高等学校
石谷 正美	札幌市立札幌中学校長
池田 悦子	札幌市立いなづみ幼稚園長
鎌原 寛	札幌市立琴似小学校教頭
会計部長	
益村 豊 (北海道造形教育連盟会計部長/札幌市立菊水小学校長)	
副会計部長	
谷山 圭子	札幌市立屯田西小学校教頭
元茂 章子	札幌市立澄川南小学校

研究部

部長	川島 正夫	札幌市立幌南小	藪下 栄一	札幌市立幌西小
	森 美由紀	札幌市立白楊幼	小林 知広	札幌市立前田北小
	湯浅 大吾	札幌市立伏見小	伊藤 尚	札幌市立八条中
	大高 雅子	札幌市立平岡緑中	安田 仁昭	札幌市立西岡北中
	阿部 時彦	札幌市立八軒中	館内 徹	札幌市立藤野中
	高橋久美子	札幌市立福井野中	向井 正樹	札幌市立あいの里東中
	澤田 範明	札幌清田高	石川 早苗	札幌市立宮の丘中
	細川 依子	私立丘珠幼稚園副園長	水野 一英	教育大学附属札幌中
	加藤 雅子	札幌市立屯田西小	斉藤 周	札幌開成高
	堀口 基一	教育大学附属札幌小	鉢呂 彰敏	札幌平岸高
	山 薫	札幌市立上野幌東小	本庄 隆志	札幌南陵高
	森實 祐里	札幌市立三角山小	松井 茂樹	北広島高
	小野 博史	札幌市立東山小	坂東 宏哉	札幌手稲高
	伊藤 正敏	札幌市立西白石小	川上 勉	札幌白陵高

庶務・渉外部

部長 箭内 浩之 札幌市立真駒内曙小
 高向 修子 藤女子中・高等部
 藤森 久美 札幌市立前田北小
 本間 真理 札幌市立西野小

今谷 孝 札幌市立八軒北小
 椿野 衣江 札幌市立真栄中
 氏家 珠実 札幌市立日新小

会 場 部

部長 毛利 聡 札幌市立澄川南小
 富樫 信博 札幌市立藤野小
 松山 茂生 札幌市立澄川西小
 池田 武彦 札幌市立月寒小
 福島由紀子 札幌市立澄川西小
 小野 正二 札幌市立伏古北小
 八田 博之 札幌市立中央小
 ニッ山かおる 札幌市立平岡中央小
 葛西 実 札幌市立北野平小
 塚本由岐子 札幌市立栄北小

岩井 久根 札幌市立二条小
 岩崎 重明 札幌市立南月寒小
 濱口 裕子 札幌市立澄川西小
 大門 沙織 札幌市立幌西小
 新見亜矢子 札幌市立平岸高台小
 寺田 実 札幌市立柏中
 安藤 桃子 札幌市立手稲中
 森岡 香子 札幌市立稲穂中
 佐々木曉子 札幌市立札幌中

事業・広報部

部長 東 尚典 札幌市立大谷地東小
 土肥 宏充 札幌市立清田南小
 小林 充裕 札幌市立厚別東小
 中山 龍男 札幌市立手稲西中

山室ゆかり 札幌市立山鼻南小
 冨波 修 札幌市立白楊小
 松本 和彦 札幌市立発寒小
 平井 歩 札幌市立厚別北中

会 場 校 職 員 札幌市立澄川西小学校

校長 今 裕子
 教 頭 渡辺 聡
 教 諭 松山 茂生
 山田 和子
 津田 敏夫
 横道利恵子
 田中 譲
 吉田輝志子
 相馬 慎司
 濱口 裕子
 高橋 聡
 上原 千明
 川床水登里
 田島 吉晃
 佐々木 香

福島由紀子
 丸山 俊明
 養護教諭 中笠渡幸代
 事務主任 中澤 和郎
 栄養職員 福井双葉子
 用 務 員 長砂 幸也
 高橋 康一
 校務助手 相生左恵美
 調 理 員 藤原 玲子
 今川 好子
 亀岡 栄子
 谷垣 律子
 飯田美恵子
 吉川亜希子

全道造形教育研究大会開催地と研究一覧

- 第1回(札幌)1950
情操教育の一貫として本道図画工作教育の進展を図るため
- 第2回(札幌)1952
図画工作教育の新思潮である創造主義美術教育の諸問題について
- 第3回(旭川)1953
美術教育の指導とは何か
- 第4回(函館)1954
図画工作教育実践上の諸問題について
- 第5回(釧路)1955
図画工作教育における学習指導上の問題点の解明
- 第6回(札幌)1956
造形教育において、つくり出す力を養うにはどうしたらよいか
- 第7回(室蘭)1957
のぞましい造形教育における具体的諸問題について
- 第8回(小樽)1958
図画工作学習によって児童生徒の人間性がどのように培われるか
- 第9回(帯広)1959
新段階における造形教育のあり方
- 第10回(網走)1960
本道における造形教育の実践を通して今後のあり方を見出そう
- 第11回(滝川)1961
子供たちの芸術性を育てるために私たちは何を与え何をすべきか
- 第12回(名寄)1962
子供が生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか
- 第13回(余市)1963
子供が生活を見つめ造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか
- 第14回(札幌)1964
子供の創造能力とは何か
- 第15回(稚内)1965
子供の創造能力とは何か
- 第16回(室蘭)1966
子供の造形能力とは何か
- 第17回(函館)1967
指導の構築を具体化する
- 第18回(苫小牧)1968
指導の構築を具体化する
- 第19回(札幌)1969
造形能力は、どのような指導によって育てられるか
- 第20回(旭川)1970
ゆたかに生きる子供の造形能力をどう育てるか
- 第21回(札幌)1971
造形能力は、どのような指導によって育てられるか
- 第22回(帯広)1972
未来に生きる子供の造形教育(生活に根ざした造形教育をどう高めるか)
- 第23回(室蘭)1973
未来に生きる子供の造形教育(たしかな表現力をどのように育てるか)
- 第24回(美幌)1974
未来に生きる子供の造形教育(ひとりひとりの子供の表現力をどう高めるか)
- 第25回(江別)1975
未来に生きる子供の造形教育(自ら創り出す力をどう育てるか)
- 第26回(岩見沢)1976
未来に生きる子供の造形教育(すべての子供に造形のよろこびを)
- 第27回(札幌)1977
(第30回全国造形教育研究大会とかねる)
みずみずしい中味でしなやかな子供を育てる造形実践
- 第28回(函館)1978
みずみずしい中味でしなやかな子供を育てる造形実践(すべての子供が生き生きととりくむ学習)

- 第29回(旭川)1979
生き生きとしたゆとりある子供を育てる図工美術教育のあり方
- 第30回(苫小牧)1980
ひろがりやと深まりの造形教育を求めて
- 第31回(釧路)1981
創り出す心をよびおこす造形教育
- 第32回(室蘭)1982
見る、知る、感ずる、そして創りあげる喜びを
- 第33回(留萌)1983
生活とふれあい、創る心のひろがりを求める造形活動
- 第34回(札幌)1984
知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動
(わきたつ発想・たしかな表現・つくり出す喜び)
- 第35回(函館)1985
知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動
(心をこめてつくり出す子供を育てる)
- 第36回(旭川)1986
(第39回全国造形教育研究大会とかねる)
子供の心をゆり動かす造形活動(つくる心のひろがり求めて)
- 第37回(紋別)1987
子供の心をゆり動かす造形活動(表現の喜びにひたる子供を育てる)
- 第38回(滝川)1988
子供の心をゆり動かす造形教育(ひたむきに創る心を育てる)
- 第39回(帯広)1989
子供の個性的表現を授ける造形教育の充実
(君はいま創造のとりこに)
- 第40回(苫小牧)1990
広がり、深まり、そして感動を!
- 第41回(札幌)1991
子供の個性的表現を授ける造形教育(子供のつくる喜びをひらく)
- 第42回(函館)1992
子供の個性的表現を授ける造形教育の充実
(感動、そして創造する喜びを)
- 第43回(旭川)1993
思いをあたため心はずませる創る喜びを
- 第44回(釧路)1994
心ときめく、創造の喜びを求めて
- 第45回(千歳)1995
豊かな心と確かな力をはぐくむ造形活動を
- 第46回(札幌)1996
自らの心を拓く造形活動の在り方
～造形=愛感美遊創 in 札幌～
- 第47回(根室)1997
感動から発し躍動する力を育む造形学習を!
- 第48回(留萌)1998
楽しさにひたり伸びやかに表す造形活動と共感し
寄り添う指導
- 第49回(オホーツク)1999
オホーツク発 思・創・喜・感
～一人ひとりが創造的な喜びを実感するために～
- 第50回(函館)2000
20世紀から21世紀へ
～心の風景(ビジョン)の発信を!～
豊かな自分づくりを生かす想創活動
- 第51回(札幌)2001
心豊かに未来に生きる造形教育
- 第52回(帯広)2002
豊かな感性をはぐくむ造形教育
- 第53回(滝川)2003
つくる喜びを実感できる造形教育
- 第54回(旭川)2004
豊かに感じ おもいをふくらませ
あらかず喜びを
- 第55回(函館)2005
めざめる感性(こころ)
きらめく個性(かたち)
～地域空間がいざなう
造形教育のひろがり～

北海道造形教育連盟規約

1. 名称と目的

本連盟は、北海道造形教育連盟といい、北海道造形教育の振興を図るをもって目的とする

2. 事業

本連盟は、目的を達成するため次の事業を行う

- ① 研究会・講習会・展覧会等の開催及び後援
- ② 造形教育に関する教科書・教材・教具等の研究
- ③ 機関誌の刊行
- ④ 他の造形教育団体との連絡提携
- ⑤ その他造形教育振興上必要な事項

3. 会員

正会員 本道幼・小・中・高・その他これに準ずる学校の教職員

賛助会員 本連盟の目的に賛同するもの

4. 組織

サークル 本道各地にサークルを置き、会員は原則としてこれに所属する

本部 本連盟の本部は札幌に置く

5. 構成及び任務

① 役員

委員長 1名 本連盟を代表する

副委員長 若干名 委員長を補佐する

会計監査 2名 会計の監査をする

② 委員

地区委員 地区1名 地区サークルを代表する

常任委員 若干名 本連盟の運営に当たる

顧問 連盟の重要な問題につき意見を述べる

6. 選任

*委員長、副委員長、会計監査は委員総会で選出する

*地区委員は地区サークルで選出する

*常任委員は委員長の委嘱による

*顧問は委員総会において委嘱する

7. 任期

役員及び委員の任期は1カ年とする、但し重任を妨げない

8. 会議

*総会 必要に応じ開催し、連盟事業につき協議する

*委員総会 役員、委員をもって構成し毎年開催する

役員を選出、予算、決算及び年度計画等につき審議する

*常任委員会 役員及び常任委員をもって構成し、連盟の事業を執行する

9. 会計

本連盟の会計は、会費・事業収入及び寄付金により執行する

会費 正会員は一人年額2,000円を納入するものとする

サークルは、年額10,000円を納入するものとする

10. 事務局

*事務局は事務局長在勤の学校に置く

*事務局長は常任委員中より委員長が委嘱する

*事務局には必要に応じて各部を設け業務を分担する

11. 年度

本連盟の事業並びに会計年度は、5月に始まり翌年4月に終わる

12. 規約の改廃

本規約の改廃は委員総会の議決による

(平成6年4月29日改訂)

(平成9年4月29日改訂)



第56回全道造形教育研究大会札幌大会
大会紀要

発行 平成18年7月26日
第56回全道造形教育研究大会
大会長 今 裕子
編集 大会実行委員会・研究部紀要編集課
印刷 小南印刷株式会社
札幌市中央区北9条西23丁目 ☎011-641-5373

